

Ver1.0

Reboot Guard 導入マニュアル



アプリバージョン： 02.02.0004

監視 IP ・ ポート数： 15

目次

目次	1
1. はじめに	2
1.1. 安全上のご注意	3
1.1.1. 絵表示及び図記号の説明	4
1.1.2. ご注意	10
1.2. 各部の名称	11
1.2.3. 前面	11
1.2.4. 背面	12
1.3. 基本動作	13
1.4. 内部構成図	14
2. 設置方法・初期設定	15
2.1. 設置方法	15
2.1.1. 設置場所	15
2.1.2. 接続方法	16
2.1.3. ラックに取り付ける場合	17
2.2. 初期設定	18
2.2.1. ディップスイッチの設定	18
2.2.2. 管理 Web ページのアクセス	20
3. 各機能及び操作方法	21
3.1. 管理 TOP 画面及びログイン	21
3.2. 監視機能	25
3.3. スケジュール機能	27
3.4. 遠隔操作機能	29
3.5. 各種設定	30
3.5.1. 監視設定	32
3.5.2. スケジュール設定	37
3.5.3. WOL アドレス設定	38
3.5.4. Telnet コマンド設定	39
3.5.5. HTTP コマンド設定	40
3.5.6. システム設定	41
3.5.7. システム設定保存による再起動	48
3.5.8. 時刻設定	49
3.5.9. 設定値の保存と復元	50
3.6. イベントログ機能	51
3.7. 再起動	52
4. 製品仕様	53
4.1. 製品仕様	53
4.2. コネクタのピン配列	54
4.2.1. LAN ポート	54
4.3. 主要ログメッセージ一覧	55
5. その他	56
5.1. 保証について	56
5.2. 修理のご依頼	57
5.3. お問い合わせ先	58

1. はじめに

このたびは、REBOOT GUARD®（以下、本装置）をご購入いただき、誠にありがとうございます。

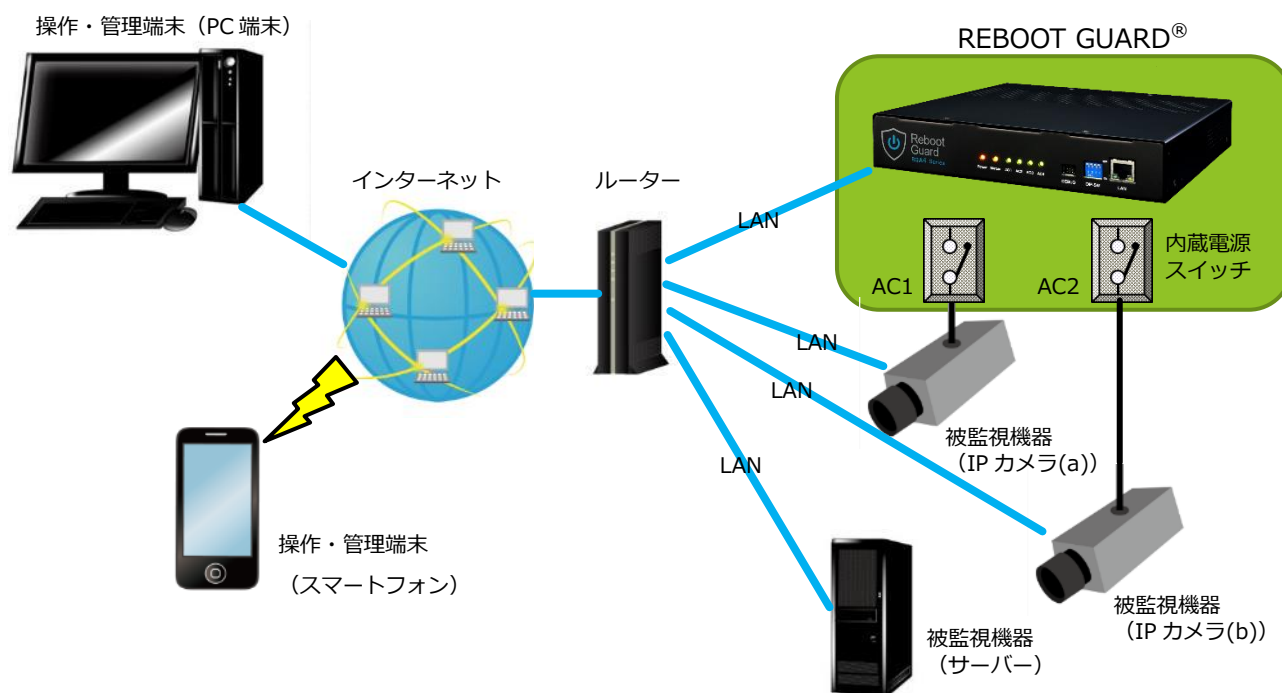
本装置は、LAN（Local Area Network:ローカルエリアネットワーク）上に存在するネットワーク機器の可用性を高めるために、それらネットワーク機器の死活管理（監視&再起動）を行い、最大 4 つのアウトレット給電の OFF/ON を行うことでネットワーク機器の再起動を実行する装置です。 死活管理とは、管理対象となるネットワーク機器が正常に動作しているか否かを常時監視し、当該の機器が停止（フリーズ状態）している場合には、あらかじめ設定した方法で自動再起動を実行するものです。

本装置には Web サーバーが実装されているので、死活管理による自動再起動だけではなく、遠隔地から Web ブラウザにて本装置にアクセスし、手動操作することによりあらかじめ設定したネットワーク機器を容易に再起動させることも可能です。

また、週間スケジュール管理機能を併せ持つため、ネットワーク機器の電源を入り/切りする時刻をあらかじめ設定しておくことができます。 この機能により、管理されるネットワーク機器をその設定に従い起動あるいはシャットダウンなどの処理をタイマー制御で自動実行することが可能です。

Fig. 1 に本装置を使った高可用性システム構築例を示します。 この例では、本装置は被監視機器（IP カメラとサーバー）を常時死活監視し、被監視装置の異常を検知した場合には、①IP カメラ(a)に対しては本装置の内蔵電源スイッチ（リレー）AC1 を OFF/ON し被監視装置の再起動を、②IP カメラ(b)に対しては本装置の内蔵電源スイッチ（リレー）AC2 を OFF/ON し被監視装置の再起動を、③サーバーに対しては HTTP 通信もしくは Telnet 通信により被監視装置の再起動をそれぞれ試みます。 また、本装置のスケジュール管理機能にて被監視装置を設定した時刻に起動/シャットダウンすることで省電力システムを実現することができます。

Fig. 1 システム構築例



ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みください。



1.1. 安全上のご注意

- ご使用前に必ず、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ここに記載した注意事項は、人体への危害及び財産の損害を未然に防ぐための重要な内容が記載されていますので、その内容を必ず守ってご使用ください。
- 本書は、ご使用後も大切に保管してください。

1.1.1. 絵表示及び図記号の説明




絵表示について

この取扱説明書の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、人体への危害や財産の損害を未然に防ぐため、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は、次のようになっています。

絵 表 示	絵表示の意味
 警告	この表示を無視し誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷（＊１）を負う危険が想定されることを示しています。
 注意	この表示を無視し誤った取扱いをすると、人が傷害（＊２）を負う危険が想定されるか、物的損傷（＊３）の発生が想定されることを示しています。

- ＊１ ： 重傷とは、失明や怪我、低温火傷高温火傷、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るもの及び治療に入院や長期通院を要するものを指します。
- ＊２ ： 傷害とは、治療に入院や長期通院を要さない怪我や火傷、感電などを指します。
- ＊３ ： 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどに関わる拡大損害を指しています。

図記号の例

図 記 号	図記号の意味
 破裂注意	△記号は注意「気を付けるべきこと」を意味しています。 左図の例は、「破裂注意」を示しています。
 分解禁止	⊘記号は禁止「してはいけないこと」を意味しています。 左図の例は、「分解禁止」を示しています。
 プラグ抜け	●記号は強制「必ずすること」を意味しています。 左図の例は、「電源プラグをコンセントから抜く」を示しています。



● **湿気・油煙・ほこりの多いところで使用しない**

加湿器・調理台のそばや、ほこりの多い場所などに設置すると、故障や感電、火災の原因となるおそれがあります。



● **タコ足配線をしない**

本装置の電源は、AC 電源コンセントに直接接続してください。テーブルタップや分岐ソケットを使用したタコ足配線は、故障や感電、火災の原因となるおそれがあります。



● **電源ケーブルを乱暴に扱わない**

本装置の電源ケーブルを加工したり、過熱したり、引っ張ったり、重いものを乗せたりしないでください。故障や感電、火災の原因となるおそれがあります。



● **強い放射線、強電磁界を受ける場所に設置しない**

極端に強い電界、磁界および強い放射線を受けるような場所に設置しないでください。故障や火災の原因となるおそれがあります。



● **電源は交流 100V (50/60Hz) で使用する**

本装置に供給する電源電圧は、交流 100V で周波数 50Hz または 60Hz にしてください。仕様範囲外の電源電圧を供給した場合、故障や感電、火災の原因となるおそれがあります。



● **電源ケーブルの電流は許容規格内で使用する**

本装置に供給する電源電流は規格の範囲内で使用してください。それ以上の電源電流を流した場合、故障や感電、火災の原因となるおそれがあります。



● **電源プラグは奥まで差し込む**

電源プラグは、奥までしっかりと差し込んでください。接続が不完全な場合、ほこりなどが付着することで故障や感電、火災の原因となるおそれがあります。



● **アースを接続する**

本装置は、アース接続を行って使用してください。正しくアース接続を行わずに使用すると感電の原因となるおそれがあります。



警告



- **上にものを置かない**

本装置の上に重いものや、液体が入ったものなどを置かないでください。過重による筐体変形や液体の混入によって、故障や感電、火災の原因となるおそれがあります。



- **異物を挿入しない**

本装置の上面、側面の通風孔から異物を入れないでください。金属類や紙などの燃えやすいものが内部に入った場合、火災や故障の原因となるおそれがあります。



- **濡れた手で本装置や電源プラグを触らない**

濡れた手で、本装置や電源プラグに触れると感電や故障の原因となるおそれがあります。



- **雷が鳴りだしたら、本機及び電源プラグや電源ケーブルに触れない**

感電の原因となるおそれがあります。



- **分解、改造をしない**

火災や感電の原因となるおそれがあります。ハードウェアやソフトウェアを改造した場合には、動作の保証は致しかねます。



- **異常が発生したら電源プラグを抜く**

発熱、発煙、異臭、異音などの異常が発生したら、直ちに電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると、火災や故障の原因となるおそれがあります。またその際には弊社または取扱店にお問合せください。



- **落下および破損したら電源プラグを抜く**

万一、本装置を落下させたり、破損した際には直ちに電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災や故障の原因となるおそれがあります。またその際には弊社または取扱店にお問合せください。



警告



- **異物や水が内部に入ったら電源プラグを抜く**

万一、本装置内部に異物や水などが入った場合には、直ちに電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると故障や感電、火災の原因となるおそれがあります。またその際には弊社または取扱店にお問合せください。



- **特別に高い信頼性や安全性を要する機器に接続しない**

本装置は、一般的な電子機器（パソコン、ルーター、Web カメラ、放送用 STB など）と接続することを想定して作られています。生命・身体の維持に關与する機器や、甚大な財産損害を引き起こす恐れがある機器などの非常に高い信頼性を要する機器（医療機器、車載制御装置、金融関連機器、原子力関連機器、各種安全装置など）には接続しないでください。



- **危険源になる機器には接続しない**

アウトレットには、電気ストーブ・電熱器具・電動機など、無人で稼働したときに、火災や感電、傷害などの危険を引き起こすおそれのある電気器具・機器類の接続は行わないでください。



- **危険源になる機器には接続しない**

本製品に接続した電気器具・機器類の突然の稼働/停止によって感電や傷害の危険が生じるおそれのある装置、および周囲が発火するおそれがある装置は本製品への接続は行わないでください。



- **危険源になる機器には接続しない**

事情や危険を知らずに容易に触れられる環境では、突然の稼働/停止によって傷害・感電の危険のおそれのある電気器具・機器類の接続は行わないでください。



- **連続運転不可能な負荷機器への接続を禁止する**

連続運転が行えない機器は、本製品への接続は行わないでください。



- **電源コードを束ねての使用を禁止する**

本製品の背面 AC アウトレットから給電を行う際には、電源コードを束ねて使用しないでください。



注意



- **通信障害が発生しても問題がない装置のみを接続する**

通信回線の故障などにより遠隔制御が行えなくなった場合でも安全状態が維持される、連続運転可能な電気器具・機器類のみを接続してください。



- **ACプラグを容易に取り外せる位置へ設置する**

機器の近傍にいる人が危険を感じた場合に、機器を容易に停止できるよう、本製品に接続する機器の近傍に設置し、かつ本製品のアウトレットから機器の AC プラグを容易に取り外せる状態を保ってください。



- **電源プラグは定期的に掃除をする**

電源プラグにゴミやほこりが蓄積し付着すると、故障や感電、火災の原因となるおそれがあります。電源プラグの接続部は定期的な点検及び掃除を行ってください。



- **温度が高くなる場所に設置しない**

直射日光の当たる場所や発熱機器のそばなど、温度の高くなる場所に設置しないで下さい。故障や火災の原因となるおそれがあります。



- **風通しの悪い場所に設置しない**

本装置を密閉された場所に設置しないでください。内部温度が上昇し、故障や火災の原因となるおそれがあります。



- **通風孔をふさがない**

本装置の上面、側面にある通風孔をふさぐと、内部温度が上昇し、故障や火災の原因となるおそれがあります。



- **逆さまや横向きに設置しない**

本装置を横向き、あるいは上下反転して設置しないでください。故障や火災の原因となるおそれがあります。



注意



- **不安定な場所や振動のある場所に置かない**

不安定な場所や振動のある場所で使用すると本装置の落下により、故障・けがの原因となるおそれがあります。



- **電源プラグは正しく扱う**

電源プラグを抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張ってプラグを抜くと、電源プラグや電源ケーブルが破損し、故障や感電、火災の原因となるおそれがあります。



- **日本国内で使用する**

本装置は、日本国内で使用することを前提に作られています。日本国外での使用は電源電圧の違いにより故障や火災の原因となるおそれがあります。 また、日本国内で適用される法規や規定（電波法、電気用品安全法）に準拠していますので、日本国外で使用する、その国の法規に抵触する恐れがあります。

This product is designed for use in Japan only, and cannot be used in any other countries.

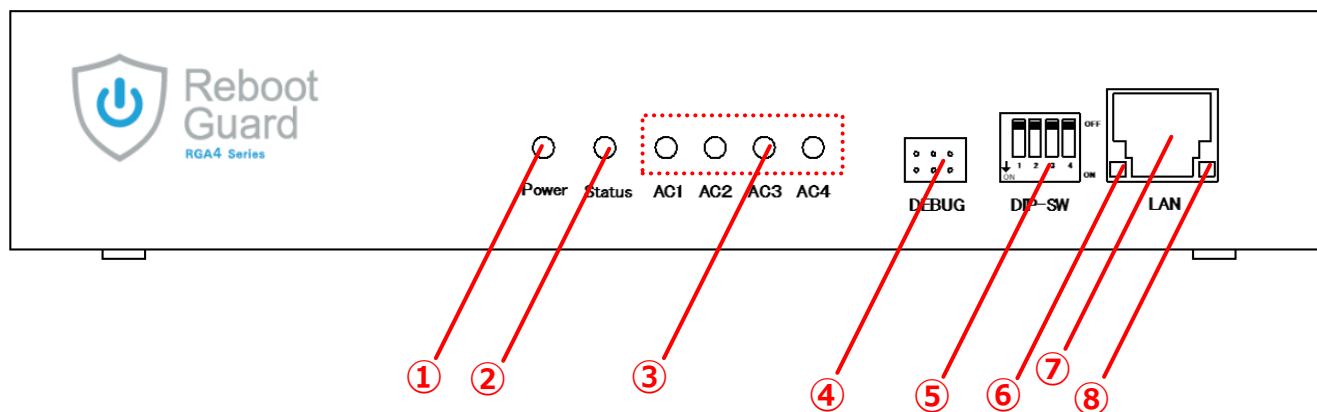
1.1.2. ご注意

- 本書の著作権は株式会社フーバーブレインに帰属しますので、無断でその一部または全部の複製、あるいは無断転載を禁じます。
- 本書の記載されている内容及び仕様等は、予告なしに変更する場合があります。
- 本書の記載された内容に従わなかったことにより、直接的・間接的に生じた損害については責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本装置の使用または使用不能から生じる付随的な障害（事業利益の損失、事業の中断、記録内容の変化・消失など）に関しては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本書の内容についてご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きの点がありましたら、問い合わせ先までご連絡下さい。
- REBOOT GUARD[®] は株式会社フーバーブレインの登録商標です。
- Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
- Ethernet は、米国ゼロックス社の製品名称です。
- Google Chrome は、Google Inc.の米国及びその他の国における登録商標です。
- Microsoft Edge は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- このほか、本文中の製品名、会社名及びサービス名などの固有名称は、各社の登録商標および商標です。
- 記載されているシステム名、製品名等には、必ずしも商標表示 ((R)、TM) を付記していません。

1.2. 各部の名称

1.2.3. 前面

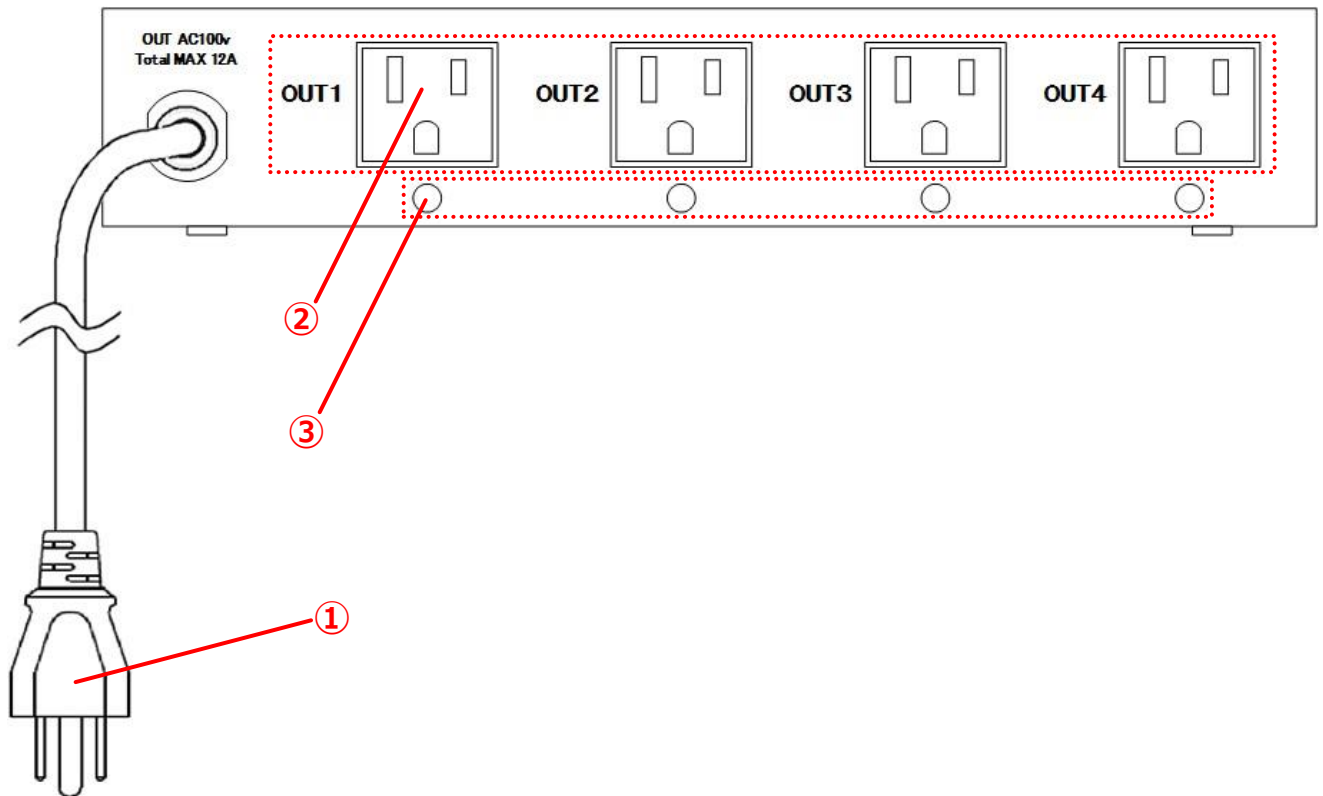
Fig. 2 前面図



①	電源ステータス表示器	本装置の電源状態を表示する LED 表示器（赤色）です。本装置に AC 電源（AC100V 50/60Hz）が供給されていると点灯します。		
②	内部ステータス表示器	本装置の内部の動作状態を表示する LED 表示器（橙色）です。この LED の点灯パターンによって、内部状態を示します。ステータスには次のものがあります。		
		1) 低速点滅	1 秒周期	通常運用モード状態
		2) 高速点滅	0.25 秒周期	起動中状態
		3) 点灯 もしくは 消灯	5 秒以上継続	内部異常
③	AC アウトレット表示器	本装置の背面にある AC OUT の ON/OFF 状態を表示する LED 表示器（緑色）です。 LED 点灯状態=AC OUT 給電 ON / LED 消灯状態=AC OUT 給電 OFF		
④	DEBUG	このポートは、弊社工場での生産及び検査、保守に使用します。 通常運用時には使用しませんので、何も接続しないでください。		
⑤	ディップスイッチ	本装置の起動時の設定および設定初期化に使用します。 詳細は、別項「2.2.1 ディップスイッチの設定」(P.18) を参照ください。		
⑥	ACT 表示 LED（緑）	LAN 上で本装置がリンクアップ（接続）されているときに点灯します。		
⑦	LAN ポート	イーサネット規格 10base-T/100base-T 対応の RJ45 コネクタです。		
⑧	LINK 表示 LED（橙）	LAN 上にパケットが送受信されているときに点滅します。		

1.2.4. 背面

Fig. 3 背面図



①	AC 電源プラグ	AC コンセント (AC100V 50/60Hz) に差し込みます。
②	AC 電源アウトレット	本装置によって ON/OFF 制御される AC 電源アウトレットです。 死活監視をする被監視装置に AC 電源 (AC100V) を供給します。 本機種では 接続可能な機器の消費電力は OUT1～OUT4 の合計値 1200W まで です。
③	ケーブルクランプ取付穴	別売の電源プラグ抜け防止ケーブルクランプを固定します。

1.3. 基本動作

本装置の基本的な動作について、Fig. 4 を例に説明します。

Fig. 4 の例では、本装置と被監視装置（この場合 IP カメラとサーバー）、ルーターが LAN（ローカルエリアネットワーク）で接続されています。IP カメラの電源は、本装置のアウトレット出力から供給されています。

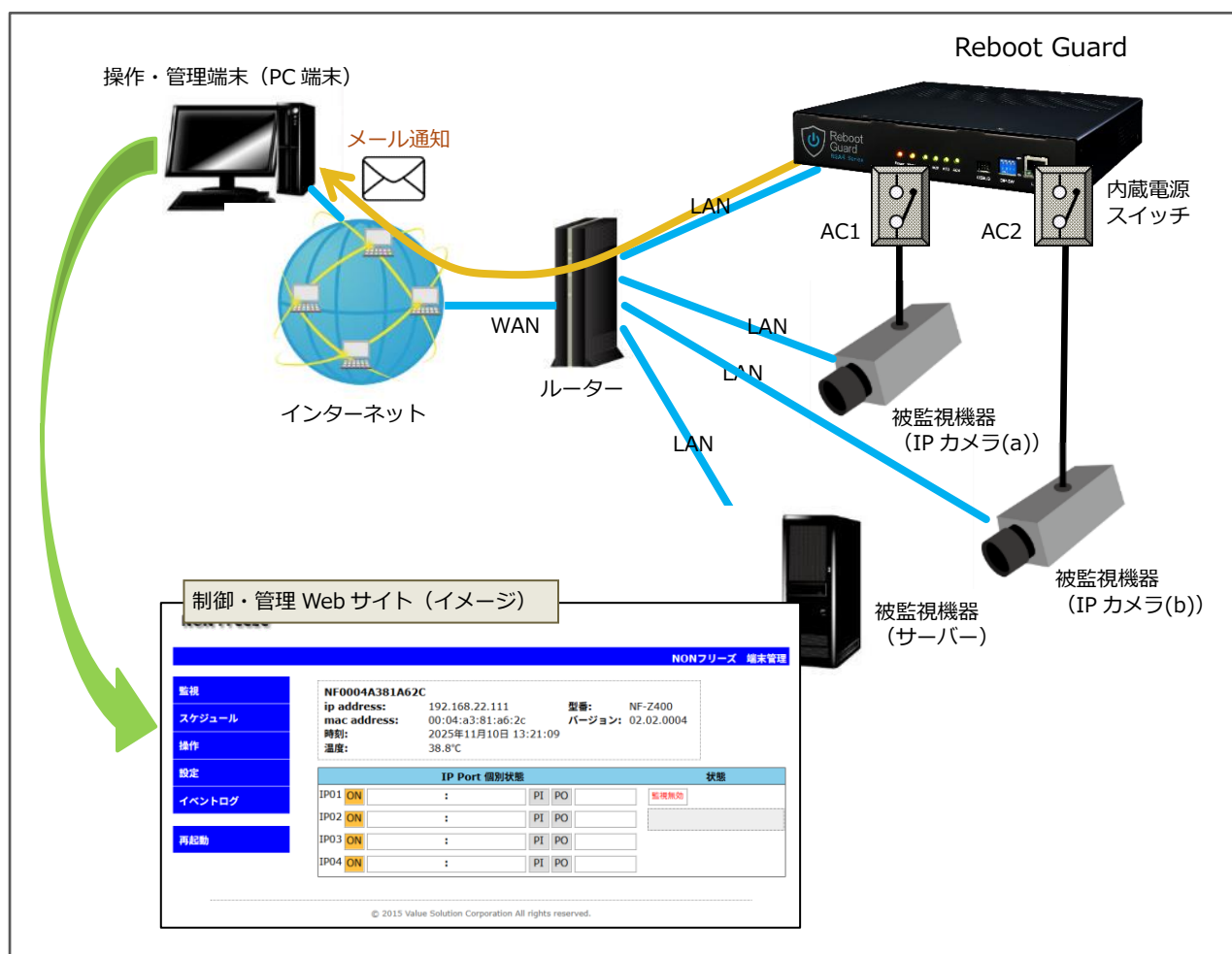
被監視装置には本装置から定期的に監視コマンド（PING/PORT）が送信されており、一定間隔で被監視装置が動作していることを確認します。これを“死活監視”と呼びます。

この例で、本装置からの監視コマンドに対する応答が無いことから IP カメラのフリーズを検知した際には、本装置の対応した電源スイッチを切って再度投入を試みます。同時に、本装置から、あらかじめ登録しておいたアドレス宛てに異常状態の検知を通知するメールを送信します。

監視・再起動以外にも、本装置にはスケジュール機能が搭載されており、設定した時刻に被監視装置の電源を投入/切断することができます。

前記の動作設定や本装置の内部状態の確認などは、全て遠隔地からでも行うことができます。本装置は内部に HTTP サーバー機能を実装しており、制御管理用 Web サイトを提供しています。Fig. 4 下部に制御管理用 Web サイトのイメージを示します。このように操作・管理端末の Web ブラウザからアクセスすることで、本装置の設定変更、操作、内部状態やイベントログの確認などを行うことができます。

Fig. 4 基本動作説明図



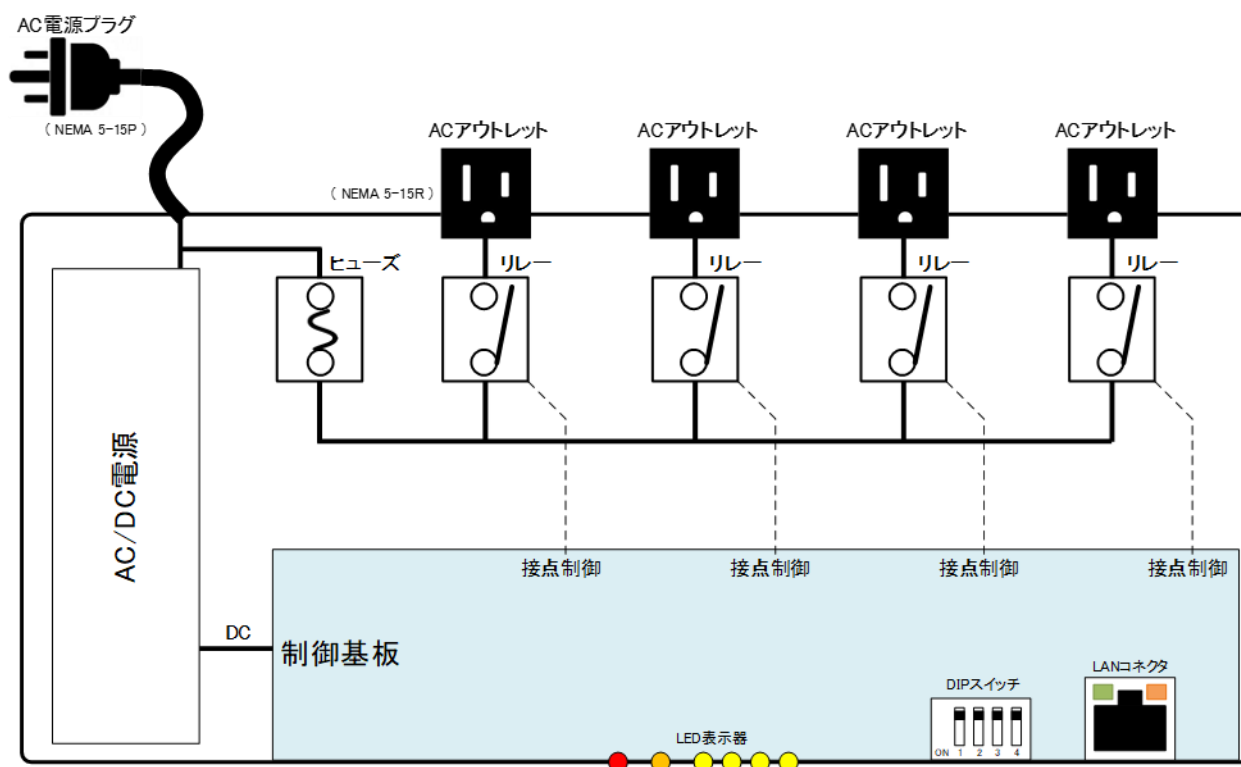
1.4. 内部構成図

本装置の内部構造を簡略化した内部構成図を Fig. 5 に示します。 本装置の内部構造は、AC/DC 電源、ヒューズ、各リレー、制御基板などから成ります。

AC アウトレットには、AC 電源プラグからヒューズおよびリレーを経由して AC 電源が接続されています。 AC/DC 電源は、制御基板に DC 電源を供給しています。

制御基板は、LAN ポートにて外部との通信を行い、その状態に応じてリレーの接点制御を行います。 この基板にはカレンダー機能が搭載されています。

Fig. 5 内部構成図



2. 設置方法・初期設定

2.1. 設置方法

2.1.1. 設置場所

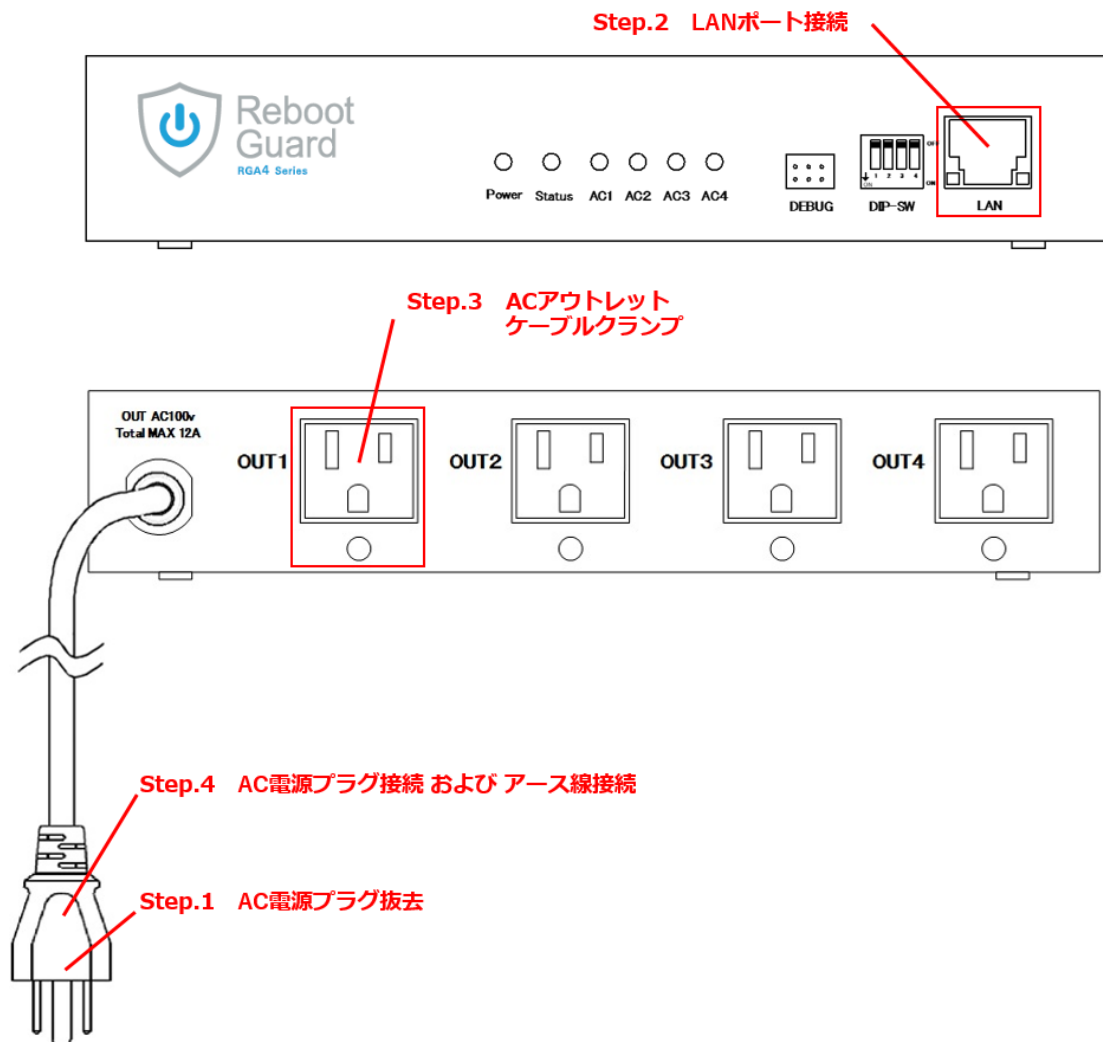
本装置を設置する際には、以下の事項に注意して設置場所を決めてください。

- 湿気や油煙、ほこりが多いところに設置しないでください。
- 上部及び側面には通風孔があります。 通風孔をふさぐように上に物を乗せたり、側面の通風孔をふさぐような場所に設置しないでください。
- 強い放射線や強電磁界を受けるような場所には設置しないでください。
- 近くにテレビやラジオがある場合、互いに電波干渉を引き起こすことがあります。 そのような場合は、テレビやラジオから距離を取って設置してください。
- 不安定な場所や振動の多い場所には設置しないでください。
- 逆さまや横向きに設置しないでください。

2.1.2. 接続方法

本装置を接続する際には、次のような手順で接続をしてください。

Fig. 6 接続説明図



- Step.1 AC 電源プラグをコンセントより外しておきます。
- Step.2 正面にある LAN ポート (RJ45 コネクタ) に LAN ケーブルを接続します。
- Step.3 背面にある AC アウトレットに所望の被監視装置の電源プラグを接続します。 このとき別売の電源プラグ抜け防止ケーブルクランプを使用し、必ずケーブルクランプ取付穴に固定してください。
- Step.4 最後に AC 電源入力プラグをコンセントに差し込みます。 差し込みコンセントがアースターミナルコンセント (2P タイプ) の場合、プラグに同梱の 2P-3P 変換器をつけ、アース接続後コンセントに差し込みます。 このときアース接続は、電源プラグをコンセントに差し込む前に必ず行ってください。

本装置には電源スイッチがなく、上記 Step. 4 で電源プラグを挿入すると即時に電源が ON になり起動します。 仮に電源プラグを挿入した際、異常を感じたらすぐに電源プラグを抜いてください。



警告



異常が発生したら電源プラグを抜く

発熱、発煙、異臭、異音などの異常状態が発生したら、直ちに電源プラグを抜き、弊社または取扱店にご相談ください。そのまま使用すると、火災、故障の原因になります。

また、本装置の接続の際、以下の事項に注意してください。

- AC 電源プラグおよびケーブルに重いものを乗せたり引っ張ったり乱暴に扱わないでください。
- 電源入力にはテーブルタップなどを使わず、直接コンセントから電源を供給するようにしてください。
- AC アウトレットに接続されている被監視装置の消費電力の合計が、本装置で規定している **許容消費電力 (1200W)** を超えないようにしてください。
- AC アウトレットに接続されている被監視装置の電源コードを束ねて使用することを禁止します。
- AC 電源プラグは交流電圧 100V（周波数 50/60Hz）のコンセントに接続してください。

2.1.3. ラックに取り付ける場合

本装置をサーバーラックに取り付ける場合には、当社または取扱店にご相談ください。

2.2. 初期設定

2.2.1. ディップスイッチの設定

本装置の前面にある DIP-SW で、本装置の起動時の動作モードを決めることができます。

DIP-SW の設定の詳細を次に記します。 DIP-SW は、正面から見て左側から順番に SW1、SW2、SW3、SW4 となっており、白いレバーを下に下げることによって ON 状態になります。

使用する SW は、SW2 のみです。 SW1、SW3 および SW 4 は未使用です。

Fig. 7 DIP スイッチ設定



次に各 SW の動作について説明します。

SW2 設定初期化・・・・・・本装置の設定をすべて工場出荷時の設定に戻します。 この設定は緊急用です。

次に設定初期化における DIP-SW 操作方法の詳細について説明します。

本装置の AC 電源プラグをコンセントから抜いた後に、DIP-SW (SW2) を ON にします。DIP-SW (SW2) を ON にしたまま AC 電源プラグをコンセントに差し込むと、前面パネルの内部ステータス表示器 (橙色 LED) が高速点滅します (約 30 秒間)。高速点滅の後、本体前面の AC アウトレット表示器 1 (緑色 LED) が約 10 秒間点滅します。この 10 秒間の緑色 LED 点滅中に DIP-SW (SW2) を OFF にすることで、設定初期化が実行されます。

なお、設定変更後は一度本装置の電源を切り 3 分程度経過してから再度電源を投入してください。初期化完了後の本装置の IP アドレスは、192.168.22.111、サブネットマスクは 255.255.255.0 となります。

設定初期化について

DIP-SW の SW2 では、本装置を工場出荷時の設定に戻すことができます。この設定初期化は、設定した IP アドレスが不明となってしまう、本装置にアクセスできなくなった場合などの緊急用です。また、本装置が工場から出荷されたときも、この設定初期化された状態になっています。

設定初期化の手順を次に記します。

準備するもの： 本装置、設定用 PC、ネットワーク環境

事前確認事項： IP アドレス 192.168.22.111 及び 112 が他の機器で使われていないこと。

1. 本装置及び、設定用 PC をネットワークに接続します。
2. 本装置の電源は切っておきます。(AC 電源プラグを AC コンセントから抜いておきます。)
3. 設定用 PC を起動し、その PC 自身の IP アドレスとサブネットマスクを一時的に下記のアドレスに変更します。(このとき、変更前の IP アドレス及びサブネットマスク値は、作業後の復旧用にメモに残すようにしてください。)

設定用 PC の IP アドレス及びサブネットマスク

IP アドレス : 192.168.22.112
サブネットマスク : 255.255.255.0

4. 本装置の DIP-SW の SW2 を ON に設定してから、本装置の電源を投入します。(AC 電源プラグを AC コンセントに挿入します。)
5. 本装置前面の内部ステータス表示器 (橙色 LED) が高速点滅 (約 30 秒間) の後、AC アウトレット表示器 (AC1) 緑色 LED が点滅状態の間に、SW2 を OFF に変更します。このとき設定の初期化が実行されて本装置が再起動します。
6. 本装置前面の内部ステータス表示器 (橙色 LED) が高速点滅 (約 30 秒間) の後、LED が低速点滅 (約 1 秒周期) に移行してから、設定用 PC から下記の IP アドレスに対してブラウザからアクセスします。(別項「2.2.2 管理 Web ページのアクセス」(P.20) を参照)

本装置の初期化後の IP アドレス及びサブネットマスク

IP アドレス : 192.168.22.111
サブネットマスク : 255.255.255.0

7. 本装置の各種設定を行います。設定方法については、別項「3.1 管理 TOP 画面及びログイン」(P.21) を参照してください。
8. 本装置の設定完了後、設定用 PC の IP アドレス及びサブネットマスク値を作業前の値に戻します。

2.2.2. 管理 Web ページのアクセス

本装置が接続されているローカルエリアネットワーク上に接続されている操作・管理用 PC から本装置にブラウザにてアクセスします。正常にアクセスができれば、次の Fig. 8 のような画面が表示されます。

☆注意☆

本装置にアクセスする際は「Microsoft Edge」のご使用を推奨いたします。

「Internet Explorer」あるいは「Firefox」、「Google Chrome」等「Microsoft Edge」以外の Web ブラウザをご利用の場合、Web ブラウザのバージョンによって表示が乱れる場合があります。

ブラウザ上で指定する IP アドレスは、本装置の DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)機能が ON の場合には、DHCP サーバーから提供された IP アドレスになります。また、DHCP 機能が OFF の場合は、固定 IP アドレス値になります。

ブラウザのアドレスバーに下記のように文字を入力します。

http://*ip_address*/↵ もしくは、 http://*ホスト名*/↵

例えば、本装置の IP アドレスを「192.168.5.123」とした場合には、

http://192.168.5.123/↵

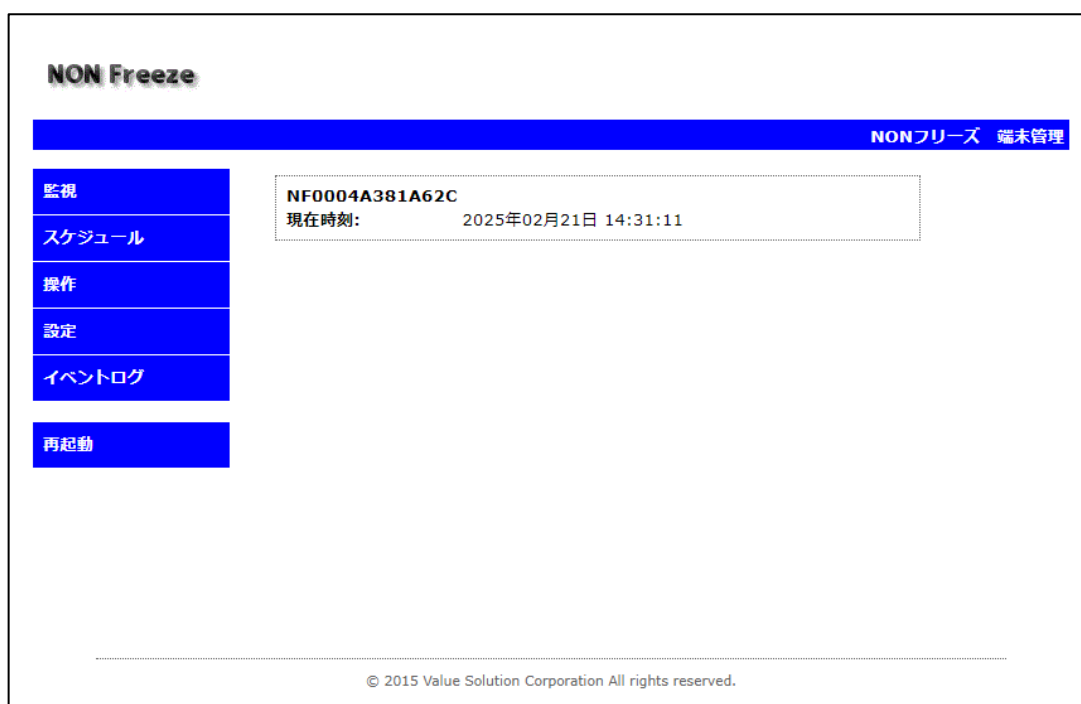
となります。

初期状態あるいは DIP スイッチによる初期化を実行した場合には、次の IP アドレスにアクセスしてください。

http://192.168.22.111/↵

ブラウザに Web 管理画面 (Fig. 8) が表示されます。表示されない場合には、ネットワーク接続を含む設置状態および初期設定を確認してください。

Fig. 8 Web 管理画面



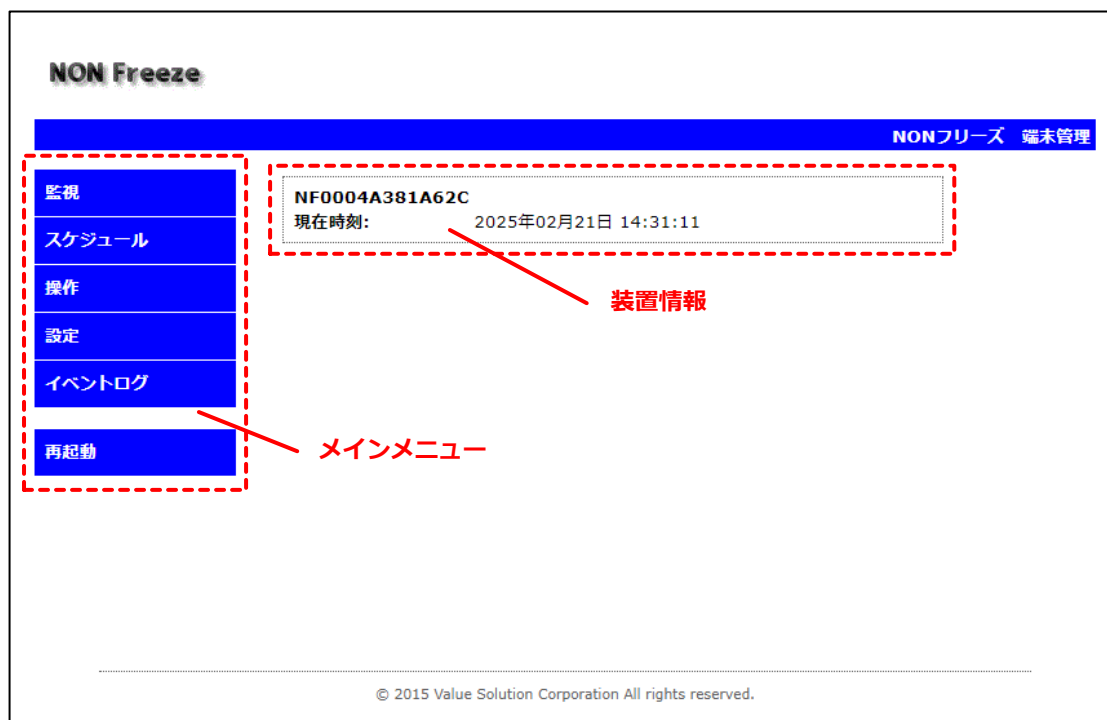
3. 各機能及び操作方法

3.1. 管理 TOP 画面及びログイン

Fig. 9 に管理 TOP 画面を示します。この管理 TOP 画面は、セキュリティが施されていないので、本装置の IP アドレスを既知の方は誰でもアクセスが可能な画面です。

この画面では、左側にメインメニューが表示され、画面中央に装置情報としてホストネームと現在時刻が表示されています。

Fig. 9 管理 TOP 画面



左側にあるメニューは、本装置の管理画面メインメニューです。メインメニューは次のような構成になっています。

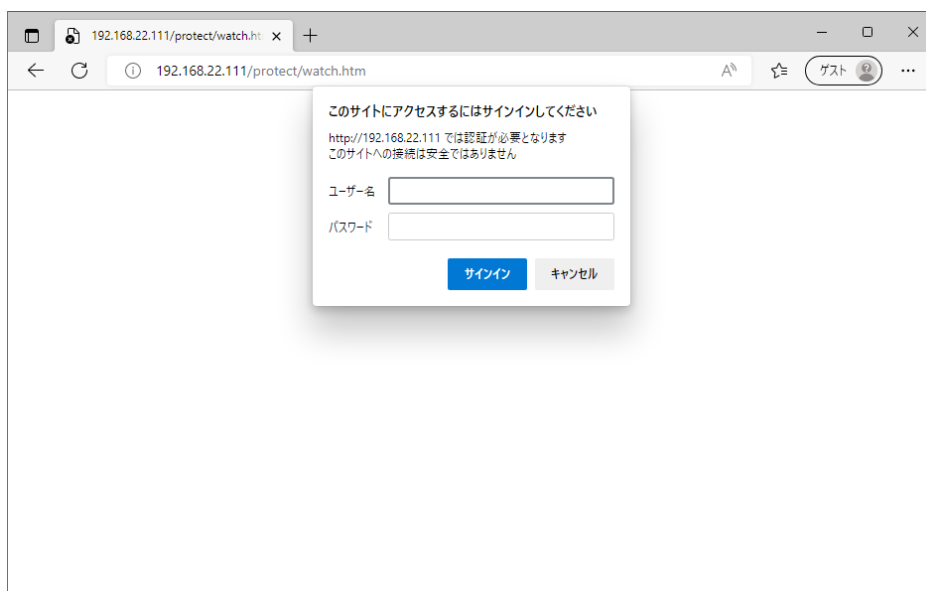
メインメニュー

監視	監視状態を表示する画面に移行します。
スケジュール	スケジュール一覧を表示する画面に移行します。
操作	本装置の AC アウトレット出力を操作する画面に移行します。
設定	各種設定（システム設定、監視設定、スケジュール設定など）を行う画面に移行します。
イベントログ	内部状態のログ（記録）を表示する画面に移行します。
再起動	AC アウトレット出力の ON/OFF 状態は維持したまま、ソフトウェア再起動を行います。

上記の各メニューの詳細は、次項より説明していきます。

上記の管理 TOP 画面にて、メインメニューいずれかの項目をクリックすると、ユーザー認証ウィンドウ (Fig. 10) が表示されます。これは、ブラウザからのログイン要求画面です。ブラウザの種類によって表示される画面が異なります。(この例では、Microsoft Edge 108.0.1462.46 のログイン要求画面です。)

Fig. 10 ユーザー認証ウィンドウ



ユーザー認証ウィンドウに、本装置に設定した「ユーザー名」及び「パスワード」を入力します。初めてログインする際には、初期設定値の「ユーザー名」、「パスワード」を入力してください。

初期設定のユーザー名 及び パスワード

ユーザー名 : admin (エー・ディー・エム・アイ・エヌ)

パスワード : value (ブイ・エー・エル・ユー・イー)

操作用パソコンを他の方と共有されている場合、ユーザー名及びパスワードを Web ブラウザに記憶させると本装置の設定を変更される可能性が生じます。ユーザー名及びパスワードの管理には十分にご注意ください。

初期設定値でログイン後、システム設定画面にて「ユーザー名」および「パスワード」を変更することができます。変更方法の詳細は、別項「3.5.6 システム設定」(P.41) を参照してください。

正しい「ユーザー名」および「パスワード」を入力しサインインボタンを押下しますと、ご確認のお願い画面 (Fig. 11) が表示されます。

Fig. 11 ご確認のお願い画面

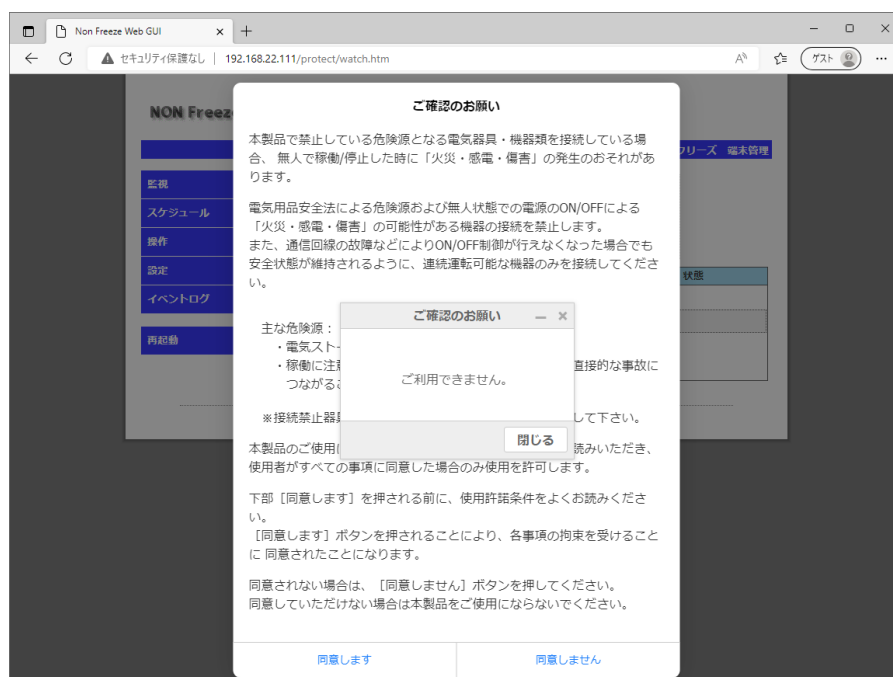


内容を注意深くご確認ください、同意される場合にのみ【同意します】ボタンを押下してください。

同意いただけない場合は、[同意しません] ボタンを押下してください。

その場合、下図の ご利用できません画面 (Fig. 12) が表示され、機器の設定を行うことができません。[閉じる] ボタンを押下すると、再び ご確認のお願い画面 (Fig. 11) が表示されます。

Fig. 12 ご利用できません画面



前記のパスワードが正常に承認されると、本装置を操作・管理が可能な画面に移行できるようになります。
次の Fig. 13 は、メインメニューの「スケジュール」項目をクリックした際の表示例です。

Fig. 13 スケジュール管理画面

NON Freeze

NONフリーズ 端末管理

監視

スケジュール

操作

設定

イベントログ

再起動

NF0004A381A62C
ip address: 192.168.22.111 **型番:** NF-Z400
mac address: 00:04:a3:81:a6:2c **バージョン:** 02.02.0004
時刻: 2025年11月10日 13:28:03
温度: 39.9℃

番号	時刻	指定曜日
1	08:00:00	日 月 火 水 木 金 土
2	17:00:00	日 月 火 水 木 金 土
3	00:00:00	日 月 火 水 木 金 土
4	00:00:00	日 月 火 水 木 金 土
5	00:00:00	日 月 火 水 木 金 土
6	00:00:00	日 月 火 水 木 金 土
7	00:00:00	日 月 火 水 木 金 土
8	00:00:00	日 月 火 水 木 金 土

© 2015 Value Solution Corporation All rights reserved.

3.2. 監視機能

管理 TOP 画面 (Fig. 9) のメインメニューから「監視」項目をクリックすると、監視画面 (Fig. 14) が表示されます。

Fig. 14 監視画面

NON Freeze

NONフリーズ 端末管理

監視

スケジュール

操作

設定

イベントログ

再起動

NF0004A381A62C

ip address: 192.168.22.111 型番: NF-Z400

mac address: 00:04:a3:81:a6:2c バージョン: 02.02.0004

時刻: 2025年11月10日 13:21:09

温度: 38.8°C

IP Port 個別状態				状態
IP01	ON	:	PI PO	監視無効
IP02	ON	:	PI PO	
IP03	ON	:	PI PO	
IP04	ON	:	PI PO	

© 2015 Value Solution Corporation All rights reserved.

監視画面は現在の設定および監視状態を一覧表示したものです。

画面上部には本装置の情報が表示されます。 その情報は下記のものがあります。

装置情報

- NFxxxxxxxxxxxx** 本装置のホスト名を表示します。(xxxxxxxxxxxx = MAC アドレス 12 桁)
- ip address** 現在設定されている IP アドレスを示します。
- mac address** 本装置の MAC アドレスを示します。
- 時刻** 現在の日付と時刻を表示します。
- 温度** 本装置内部の CPU 温度を表示します。
- 型番** 本装置の型番 (NF-Z400) を表示します。
- バージョン** 本装置のプログラムバージョンを表示します。

監視画面一覧を部分的に拡大したものを Fig. 15 に示します。 各項目について図中に説明します。

なお、この画面では表示のみが行えます。 監視の詳細設定を行うには、「設定」画面にて行います。 項「3.5.1 監視設定」(P.32) を参照してください。

Fig. 15 監視状態一覧

IP Port 個別状態				状態	
IP01	① ON	② :	③ PI	④ PO	⑤ 監視無効
IP02	ON	:	PI	PO	⑦
IP03	ON	:	PI	PO	
IP04	ON	:	PI	PO	

①	アクション連動フラグ	“ON”の場合、監視結果が NG（異常）であった際にアクションが実施されます。逆に、“OFF”の場合には、監視結果が NG（異常）であった場合であってもアクションが実行されません。
②	監視 ip/ポート番号	設定された監視先の IP アドレス、ポート番号が表示されます。
③	Ping 監視結果	直前の PING 監視結果が OK（正常）の場合、緑色で表示します。一方、監視結果が NG（異常）の場合、濃灰色で表示します。
④	PORT 監視結果	直前の PORT 監視結果が OK（正常）の場合、緑色で表示します。一方、監視結果が NG（異常）の場合、濃灰色で表示します。
⑤	自動停止中状態	アクション自動停止中の場合、“自動停止中”と赤文字で表示します。
⑥	監視有効/無効状態	監視状態が“無効”（監視停止中）の場合、“監視無効”と表示します。
⑦	監視状態	現在の監視状態（ステータス）を表示します。

3.3. スケジュール機能

管理 TOP 画面 (Fig. 9) のメインメニューから「スケジュール」項目をクリックするとスケジュール一覧画面が表示されます。スケジュール一覧画面では、現在のスケジュール設定状況が一覧表示されます。スケジュール画面上部には本装置の情報が表示されます。その表示項目は項「3.2 監視機能」(P.25) の装置情報と同様の表示内容です。

次に、スケジュール一覧画面を Fig. 16 に示します。

なお、この画面では状態表示のみが行えます。設定を行うには、「設定」画面にて行います。その詳細については、項「3.5.2 スケジュール設定」(P.37) を参照してください。

Fig. 16 スケジュール一覧画面

NON Freeze

NONフリーズ 端末管理

監視
スケジュール
操作
設定
イベントログ
再起動

NF0004A381A62C
ip address: 192.168.22.11
mac address: 00:04:a3:81:a6:2c
時刻: 2025年11月10日 13:28:03
温度: 39.9°C

型番: NF-Z400
バージョン: 02.02.0004

番号	時刻	指定曜日
1	08:00:00	日 月 火 水 木 金 土
2	17:00:00	日 月 火 水 木 金 土
3	00:00:00	日 月 火 水 木 金 土
4	00:00:00	日 月 火 水 木 金 土
5	00:00:00	日 月 火 水 木 金 土
6	00:00:00	日 月 火 水 木 金 土
7	00:00:00	日 月 火 水 木 金 土
8	00:00:00	日 月 火 水 木 金 土

© 2015 Value Solution Corporation All rights reserved.

①	番号	スケジュール設定に関連付けされるスケジュール番号を示します。 最大 8 件までスケジュールイベントを設定できます。 番号欄をクリックすると、該当する設定画面(項「3.5.2 スケジュール設定」)に遷移します。
②	時刻	スケジュールイベントを実行する時刻を示します。
③	指定曜日	スケジュールイベントを実行する曜日を示します。

Fig. 17 に表示例を示します。

監視項目「Outlet1」

- ・毎週 月～金曜日8:00”スケジュール 1（例えば、電源 ON）”を実行
- ・毎週 月～金曜日17:00”スケジュール 2（例えば、電源 OFF）”を実行

監視項目「Outlet1」

- ・毎週（土，日曜日）9:00”スケジュール 3（例えば、電源 ON）”を実行
- ・毎週（土，日曜日）21:00”スケジュール 4（例えば、電源 OFF）”を実行

なお、実行スケジュール内容の詳細は、該当する番号をクリックして遷移するスケジュール設定画面（別項「3.5.2 スケジュール設定」）で確認および設定・変更が行えます。

Fig. 17 スケジュール設定例

番号	時刻	指定曜日
1	08:00:00	日 月 火 水 木 金 土
2	17:00:00	日 月 火 水 木 金 土
3	09:00:00	日 月 火 水 木 金 土
4	21:00:00	日 月 火 水 木 金 土
5	00:00:00	日 月 火 水 木 金 土
6	00:00:00	日 月 火 水 木 金 土
7	00:00:00	日 月 火 水 木 金 土
8	00:00:00	日 月 火 水 木 金 土

3.4. 遠隔操作機能

管理 TOP 画面 (Fig. 9) のメインメニューから「操作」項目をクリックすると、操作画面 (Fig. 18) が表示されます。操作画面では、本 Web ページを経由して本装置の AC アウトレット出力を ON/OFF させることができます。

Fig. 18 操作画面

NON Freeze

NONフリーズ 端末管理

監視
スケジュール
操作
設定
イベントログ
再起動

NF0004A381A62C
 ip address: 192.168.22.111 型番: NF-Z400
 mac address: 00:04:a3:81:a6:2c バージョン: 02.02.0004
 時刻: 2025年11月10日 13:40:14
 温度: 40.1℃

名称	操作			状態
OUT1	電源ON	電源OFF	REBOOT	ON
OUT2	電源ON	電源OFF	REBOOT	ON
OUT3	電源ON	電源OFF	REBOOT	ON
OUT4	電源ON	電源OFF	REBOOT	ON

① ② ③ ④ ⑤

© 2015 Value Solution Corporation All rights reserved.

①	名称	OUT1～OUT4 を示します。 背面の AC アウトレットに対応しています。
②	操作 (電源 ON)	当該のアウトレットから AC100(Volts)の給電を開始します。
③	操作 (電源 OFF)	当該のアウトレットから AC100(Volts)の給電を停止します。
④	操作 (REBOOT)	当該のアウトレットから AC100(Volts)の給電を停止し、5 秒後に給電を開始します。
⑤	状態	各 AC アウトレットの現在の給電 (出力) 状態を示します。

3.5. 各種設定

管理 TOP 画面 (Fig. 9) のメインメニューから「設定」項目をクリックすると、設定画面 (Fig. 19) が表示されます。設定画面では、監視先情報やスケジュール、本装置のシステム情報などの各種管理を行うことができます。

設定画面の構成は、左側に固定のメインメニューがあり、上部には設定サブメニューがあります。この設定サブメニューから設定したい内容を選択します。各種設定の詳細は次項以降にて説明します。

Fig. 19 設定画面

NON Freeze **メインメニュー** **サブメニュー**

NONフリーズ 端末管理

監視 **監視設定** **スケジュール設定** **WOLアドレス設定** **Telnetコマンド設定** **HTTPコマンド設定**

スケジュール **システム設定** **時刻設定** **設定値の保存と復元**

操作

設定

イベントログ

再起動

監視有効 ☐

監視前待機(秒) 60

監視間隔(秒) 60

名称	監視条件
メモ	監視対象アドレス: No.1
	<input checked="" type="checkbox"/> アクション有効 監視 IP PORT
	<input type="checkbox"/> PORTチェックのみ <input type="checkbox"/> アクション自動休止/再開
	自動休止回数 3
	再開時間(分) 10

アクション

アクション1	アクション2	アクション3	アクション4	アクション5
なし	なし	なし	なし	なし

設定保存

© 2015 Value Solution Corporation All rights reserved.

画面上部にある設定サブメニューは、次のような構成になっています。

設定サブメニュー

監視設定	監視先 ip アドレス, ポート番号の設定、および異常検出時の振る舞い（アクション）を設定します。
スケジュール設定 . . .	スケジュール時刻設定および設定時刻到達時のアクションを設定します。
WOL アドレス設定 . .	WOL (Wake On LAN) 対応機器の MAC アドレスを登録します。
Telnet コマンド設定 . .	Telnet 対応機器に送信する Telnet コマンドを登録します。
HTTP コマンド設定 . . .	Web サービス (HTTP サービス) 対応機器に送信する HTTP コマンドを登録します。
システム設定	本装置の内部設定 (IP アドレス、メール設定他) を行います。
時刻設定	本装置の内部時計 (日付、時刻) の設定を行います。
設定値の保存と復元 . .	本装置の設定内容をファイルに保存、およびファイルから読み出します。

3.5.1. 監視設定

設定画面の設定サブメニューから「監視設定」項目をクリックするか、制御 TOP 画面のメインメニューから「設定」項目をクリックすると、監視設定画面（Fig. 20）が表示されます。

この監視設定画面では、監視先の設定と監視方式、異常検知の際の振る舞い（アクション）について設定します。 図中に各設定項目について説明します。

Fig. 20 監視設定画面

The screenshot shows the 'NON Freeze' monitoring settings interface. It includes a sidebar with navigation options: 監視 (Monitoring), スケジュール (Schedule), 操作 (Operation), 設定 (Settings), イベントログ (Event Log), and 再起動 (Restart). The main area is titled '監視設定' (Monitoring Settings) and contains several sections:

- 監視設定 (Monitoring Settings):** Includes a checkbox for '監視有効' (Monitoring Enabled) (1), '監視前待機(秒)' (Monitoring Pre-wait Time in seconds) set to 60 (2), and '監視間隔(秒)' (Monitoring Interval in seconds) set to 60 (3).
- 監視条件 (Monitoring Conditions):** Includes a '名称' (Name) field (4), a '監視対象アドレス' (Monitoring Target Address) dropdown set to 'No.1' (5), 'アクション有効' (Action Enabled) checkbox (6), '監視 IP' (Monitoring IP) field (8), 'PORT' field (10), 'PORTチェックのみ' (Only PORT Check) checkbox (7), and 'アクション自動休止/再開' (Action Auto-stop/Resume) checkbox (9).
- 自動休止回数 (Auto-stop Count):** Set to 3 (11).
- 再開時間(分) (Resume Time in minutes):** Set to 10 (12).
- アクション (Action):** A section containing five dropdown menus for 'アクション1' through 'アクション5', all currently set to 'なし' (None) (13).
- 設定保存 (Save Settings):** A button at the bottom (14).

At the bottom of the screen, there is a copyright notice: © 2015 Value Solution Corporation All rights reserved.

①	監視有効フラグ	監視の有効（監視実施）と無効（監視停止）を切り替えます。 <input checked="" type="checkbox"/> で監視有効となります。
②	監視前待機	本装置の起動時、および監視有効フラグを切り換えた際に、監視を実施するまでの待ち時間を 5~3600（秒）までの数値で入力します。
③	監視間隔	登録された監視条件（IP アドレス、PORT 番号）に対して監視を行った後、次の監視を行うまでの待ち時間を 5~3600（秒）までの数値で入力します。
④	メモ	本装置名称のメモを設定します。 この入力内容は、メール通知にて利用されます。 全角 10 文字（半角では 31 文字）以内で入力できます。
⑤	監視対象アドレス	No.1 ~ 4 をプルダウンで選びます。
⑥	アクション有効フラグ	監視結果が応答 NG（異常）であった場合、設定されたアクションを実行するか否かを設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> の場合、アクションを実行します。 <input type="checkbox"/> の場合、応答 NG（異常）を検知してもアクションを実行しません。
⑦	PORT チェックのみ	<input checked="" type="checkbox"/> を入れると、PING 監視を行わず、PORT 監視のみを行います。
⑧	アクション自動休止 / 再開フラグ	監視結果として応答 NG が設定回数連続した場合、アクションを自動休止するか否かを設定します。 「自動休止回数」は⑪にて、「再開時間」は⑫にて設定します。
⑨	監視条件 IP アドレス	監視対象機器の IP アドレスを入力します。 0.0.0.0 ~ 255.255.255.255 の範囲で入力できます。
⑩	監視条件 PORT 番号	ポート監視を行う場合に、ポート番号(1~65535)を入力します。 ポート監視を行わない（PING 監視のみを実施する）場合は、未入力（空欄）にします。
⑪	自動休止回数	PING/PORT 監視で連続して応答 NG が設定回数繰り返された監視先に対してアクションの実行を一時的に停止します。 PING/PORT 監視で応答 OK となるか、⑫再開時間（分）が経過すると、アクションの実行を再開します。
⑫	再開時間（分）	アクションの実行が自動休止となった場合、設定時間が経過することでアクションの実行が再開されます。
⑬	アクション	監視結果が応答 NG の場合に実施するアクションを最大 5 件まで登録できます。アクション 1 から 5 の順番（昇順）で実行します。
⑭	設定保存	設定内容を保存します。 設定変更後は必ずボタンを押下してください。

監視前待機 と 監視間隔

〔監視前待機〕 本装置が起動した際、および監視有効/無効設定を「監視有効」に変更した際に、設定された 1 件目の監視先への監視を開始するまでのウェイト時間です。

〔監視間隔〕 一旦 PING/PORT 監視を行った後、あるいは異常検知によりアクションを実行した後で、次の監視先への監視を行うまでのウェイト時間です。

監視前待機（秒）と監視間隔（秒）の設定可能な値は、ともに “5” ～ “3600”（数値）です。

異常検知時の本装置の振る舞いを「アクション」と呼んでいます。 このアクションには、いくつか種類があります。 以下にアクションの種類をまとめます。

アクションの種類

OUT1～4 AC アウトレット出力を ON（出力）、OFF（遮断）、REBOOT（一旦 OFF した後に ON）します。

WOL 予め登録された WOL（Wake On LAN）コマンドを発行します。

Telnet コマンド . . . 予め登録された Telnet コマンドを発行します。

HTTP コマンド . . . 予め登録された HTTP コマンドを発行します。

本装置では、アクションを最大 5 件まで設定することが可能です。 その 5 件のアクションは 1 から昇順に順次実行されます。

アクション設定

監視設定画面の下部にある「アクション設定」は、アクションの種類によって内容が変化します。 各アクションの設定内容について、Fig. 21 ～ Fig. 24 に説明します。

OUT1～OUT4 電源アウトレット出力を ON（出力） または OFF（遮断） します。

Fig. 21 アクション設定（OUT）

①	OFF / ON / REBOOT	アウトレット給電出力を OFF、ON、REBOOT（いったん OFF し 5 秒後に ON）から選択します。
④	操作前待機時間	①で選択した動作を実行するまでの待機（wait）時間を、0～255 までの数値で入力します。（単位：秒）
⑤	操作後待機時間	①で選択した動作を実行後、次アクションに遷移するまでの待機（wait）時間を、0～255 までの数値で入力します。（単位：秒）

WOL あらかじめ登録された WOL（WakeOnLAN）コマンドを発行します。

Fig. 22 アクション設定（Wake On LAN）

①	WOL アドレスリスト	WOL アドレス設定で登録したアドレスリスト（1～10）のいずれかを選択します。
②	WOL アドレス設定	WOL アドレス設定画面（Fig. 26（P.38））に遷移します。
③	テスト送信	①で選択した WOL コマンドを直ちに送信します。
④	操作前待機時間	①で選択した動作を実行するまでの待機（wait）時間を、0～255 までの数値で入力します。（単位：秒）
⑤	操作後待機時間	①で選択した動作を実行後、次アクションに遷移するまでの待機（wait）時間を、0～255 までの数値で入力します。（単位：秒）

Telnet コマンド あらかじめ登録された Telnet コマンドを発行します。

Fig. 23 アクション設定 (Telnet コマンド)

①	アドレスリスト	Telnet コマンド設定で登録したアドレスリスト (1~10) のいずれかを選択します。
②	Telnet コマンド設定	Telnet コマンド設定画面 (Fig. 27 (P.39)) に遷移します。
③	テスト送信	①で選択した Telnet コマンドを直ちに送信します。
④	操作前待機時間	①で選択した動作を実行するまでの待機 (wait) 時間を、0~255 までの数値で入力します。 (単位: 秒)
⑤	操作後待機時間	①で選択した動作を実行後、次アクションに遷移するまでの待機 (wait) 時間を、0~255 までの数値で入力します。 (単位: 秒)

HTTP コマンド あらかじめ登録された HTTP コマンドを発行します。

Fig. 24 アクション設定 (HTTP コマンド)

①	アドレスリスト	HTTP コマンド設定で登録したアドレスリスト (1~10) のいずれかを選択します。
②	HTTP コマンド設定	HTTP コマンド設定画面 (Fig. 28 (P.40)) に遷移します。
③	テスト送信	①で選択した HTTP コマンドを直ちに送信します。
④	操作前待機時間	①で選択した動作を実行するまでの待機 (wait) 時間を、0~255 までの数値で入力します。 (単位: 秒)
⑤	操作後待機時間	①で選択した動作を実行後、次アクションに遷移するまでの待機 (wait) 時間を、0~255 までの数値で入力します。 (単位: 秒)

3.5.2. スケジュール設定

設定画面の設定サブメニューから「スケジュール設定」項目をクリックすると、スケジュール設定画面（Fig. 25）が表示されます。

本画面では、曜日、時刻の設定、設定時刻到達時の振る舞い（アクション）について設定します。

Fig. 25 スケジュール設定画面

①	スケジュール番号選択	スケジュール 1~8 から選択します。 最大 8 件のスケジュール設定が可能です。
②	曜日・時刻設定	曜日および時刻（24 時間制表記〈HH:MM:SS〉）を入力します。
③	連動設定	②で登録した時刻以降に、監視を「有効」にするか、「無効」（監視停止）にするかを選択します。
④	アクション設定	① で設定した曜日・時刻に実行するアクションを設定します。 アクション設定 (p.35)を参照ください。
⑤	設定保存	設定内容を保存します。 設定値の入力・変更後は必ずボタンを押下してください。

3.5.3. WOL アドレス設定

設定画面の設定サブメニューから「WOL アドレス設定」項目をクリックすると、WOL アドレス設定画面 (Fig. 26) が表示されます。

WOL (Wake on LAN) とは、対象となる機器の MAC アドレスを付与したマジックパケットと呼ばれる特殊なパケットを UDP ブロードキャスト送信することで、リモートから LAN を経由しサーバーやパソコンなどを起動する機能です。本装置は、WOL に対応した機器のリモート起動を可能にします。

この機能を実現するには、対象となる被監視装置側のネットワークアダプタが WOL 機能に対応していることが必要であり、WOL 対象機器側にて OS や BIOS/UEFI の設定変更を要する場合もあります。その設定方法は、機種や OS の種類によって異なるため、それぞれの取扱説明書、参考文献などを参照してください。

ここで設定した WOL アドレスは、「監視設定」および「スケジュール設定」において「アクション設定」項目にて選択し利用することができます。

Fig. 26 WOL アドレス設定画面

①	MAC アドレス入力	MAC アドレスを “-(ハイフン)” や “:(コロン)” を付与せず、英数 12 桁で入力します。最大 10 件まで登録できます。
②	設定保存	設定内容を保存します。登録内容変更後は必ずボタンを押下してください。

3.5.4. Telnet コマンド設定

設定画面の設定サブメニューから「Telnet コマンド設定」項目をクリックすると、Telnet コマンド設定画面 (Fig. 27) を表示します。

Telnet は、複数のコンピュータ間を LAN 経由にて通信及び操作する方式の一つです。本装置には Telnet クライアント機能が実装されているので、Telnet サーバーが起動しているネットワーク機器 (サーバーなど) に対して、本装置からログインし、あらかじめ登録しておいたコマンドを実行することができます。

Fig. 27 Telnet コマンド設定画面

NON Freeze

NONフリーズ 端末管理

監視設定	スケジュール設定	WOLアドレス設定	Telnetコマンド設定	HTTPコマンド設定
システム設定	時刻設定	設定値の保存と復元		

Telnetコマンド設定

説明: Telnetコマンドを10件まで登録できます。対象機器へTelnetでログインして指定コマンドを実行します

アドレスリスト [No.1] ①

アドレス ②

ログインユーザー ③

ログインパスワード ④

ルートパスワード (Linuxのみ使用)

コマンド ⑤ [コマンド入力補助] ⑥

『; (セミコロン)』で区切ることで複数コマンドを登録することができます。

コマンド間ウェイト時間 [0] 秒 (00-99) ⑦

⑧ 設定保存 ⑨ 削除

© 2015 Value Solution Corporation All rights reserved.

①	アドレスリスト	No.1~10 までの 10 件から選択します。
②	アドレス	Telnet コマンドを送信する対象機器 (宛て先) の IP アドレスを入力します。
③	ログインユーザ, パスワード	Telnet サーバーにログインするためのユーザー名、パスワードを入力します。
④	ルートパスワード	root パスワードを入力します。(対象機器の OS が Linux の場合に利用)
⑤	コマンド	Telnet コマンドを直接入力します。(半角 127 文字以内、『;』を含む) 複数コマンドを『; (セミコロン)』で区切って入力することができます。
⑥	コマンド入力補助	代表的な Windows/Linux コマンドをプルダウンから選択できます。
⑦	コマンド間ウェイト時間	コマンド区切りの『; (セミコロン)』での区切り待ち時間 (秒) を入力します。
⑧	設定保存	設定内容を保存します。登録内容変更後は必ずボタンを押下してください。
⑨	削除	選択した ①アドレスリスト の設定内容を削除 (初期化) します。

3.5.5. HTTP コマンド設定

設定画面の設定サブメニューから「HTTP コマンド設定」項目をクリックすると、HTTP コマンド設定画面 (Fig. 28) に移行します。

HTTP コマンドは、Web サーバー (HTTP サーバー) が動作している機器に対して、URL に引数 (コマンド) を埋め込んで送信することができます。(Get メソッド) Web サーバー上の CGI プログラムなどにコマンドを送信して動作させる機器などの制御に利用できます。

Fig. 28 HTTP コマンド設定画面

①	アドレスリスト	No.1～10 までの 10 件から選択します。
②	アドレス	HTTP コマンドを送信したい対象機器の IP アドレスを入力します。
③	ポート番号	対象機器の Web サーバー (HTTP サーバー) の受信ポート番号を入力します。
④	コマンド	Web サーバーに送信するコマンドを入力します。(半角 127 文字以内)
⑤	設定保存	設定内容を保存します。登録内容変更後は必ずボタンを押下してください。
⑥	削除	選択した ①アドレスリスト の設定内容を削除 (初期化) します。

上記 Fig. 28 の例では、アドレスリスト 1 にて IP アドレス「192.168.22.222」、ポート番号「80」の Web サーバーに対して、コマンド『param1=123』かつ『param2=abc』を送信します。よって、送信される HTTP コマンドは次のようになります。

http://192.168.22.222:80/param1=123¶m2=abc

3.5.6. システム設定

設定画面の設定サブメニューから「システム設定」項目をクリックすると、本装置の内部設定を行うシステム設定画面（Fig. 29～Fig. 31）を表示します。

システム設定は、本装置の振る舞いを決定する重要な項目です。 設定項目は大別して以下の6つに分類されています。

- 1) ネットワーク設定
- 2) メール設定
- 3) 時刻合わせ設定
- 4) タイムアウト設定
- 5) 上下限設定
- 6) CMS 連携設定

ネットワーク設定

ここでは、本装置のネットワークに関する設定として、IP アドレス、ゲートウェイアドレス、サブネットマスクなど重要なパラメータを設定します。 次頁 Fig. 29 にネットワーク設定の設定例を示します。

これらのネットワーク設定は慎重に行ってください。 この設定を間違ってしまうと、本装置の設定画面にアクセスできなくなる恐れがあります。 仮にアクセスできなくなった際には、本装置を「工場出荷状態」に戻すことで再び操作することが可能になりますが、以前の設定値は全て消去されてしまうのでご注意ください。

（『2.2.1 ディップスイッチの設定』（P.18）参照）

そのため、本装置の設定情報をバックアップしておくことを推奨します。 設定値のバックアップについては、『3.5.9 設定値の保存と復元』（P.50）にて説明します。

Fig. 29 システム設定画面（ネットワーク設定）

①	MAC アドレス	機器固有の値を表示します。この値は変更することはできません。
②	ホストネーム	ホスト名を 15 文字以内で入力します。初期設定値は [“NF”+MAC アドレス] です。 “DHCP 有効”に設定した場合には本装置の IP アドレスが自動付与されるため、ホストネームを利用し URL [http://ホストネーム:ポート番号/] でアクセスします。 なお、ホストネームには、ASCII 文字の ‘a’ から ‘z’ まで（大文字・小文字は区別せず）と、‘0’ から ‘9’ の数字、および ‘-’（ハイフン）のみが使用できます。
③	DHCP 有効	IP アドレスを DHCP サーバーから自動的に取得する場合にチェック（☑）します。
④	IP アドレス	本装置の静的（固定）IP アドレスを入力します。
⑤	ゲートウェイ	ゲートウェイの IP アドレスを入力します。
⑥	サブネットマスク	サブネットマスクを入力します。
⑦	プライマリ DNS	プライマリ DNS アドレスを入力します。
⑧	セカンダリ DNS	セカンダリ DNS アドレスを入力します。
⑨	HTTP ポート番号	本装置の HTTP サーバーのポート番号を入力します。
⑩	Web 管理ユーザー	ユーザー認証ウィンドウ（Fig. 10）で入力するユーザー名を入力します。 出荷時の初期設定値は “admin” です。
⑪	Web 管理パスワード	ユーザー認証ウィンドウ（Fig. 10）で入力するパスワードを入力します。 出荷時の初期設定値は “value” です。
⑫	TELNET ポート番号	『3.5.4 Telnet コマンド設定』（P.39）で設定した Telnet コマンドを送信する場合の、相手先（送信先）ポート番号を入力します。出荷時の初期設定値は “23” です。

メール設定、応答リアルタイム確認、メール送信許可、メールパラメータ設定

本装置は、PING/PORT 監視にて応答異常を検知した際および一定周期での自己ライフチェック時に、管理者宛てにメール送信を行い、イベント発生を通知することができます。

Fig. 30 システム設定画面（メール設定）

メール設定

送信先メールアドレス: report@email.com ①

差出人メールアドレス: myname@email.com ②

SMTPサーバアドレス: smtp.email.com ③

SMTP送信ポート番号: 587 ④

⑤ ☒ SMTP認証

⑥ ☒ TLS1.2暗号化 ⑦

ユーザー: username ⑧

パスワード: ⑨

⑩ メールテスト送信 ⑪

テスト前に【設定保存】してください。
結果はイベントログで確認してください。

メール送信許可

CMS経由	NF直接	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	スケジュール実行報告
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	PING/PORT異常報告
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	PING/PORT正常報告
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	電源操作実行報告
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	電源操作失敗報告
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	コマンド送信実行報告
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	コマンド送信失敗報告
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ライフチェック通知
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	温度警告

「CMS経由」はCMS 連携機能設定で、
応答状態送信が有効に設定されている場合のみ動作します。

メールパラメータ設定

ライフチェック間隔(分) 20 ⑫

PING/PORT正常報告
待機(秒) 0 ⑬

メール設定		(①②③⑦⑧各項目とも最大 127 文字 (半角) まで入力できます)
①	送信先メールアドレス	通知先のメールアドレスを入力します。"/" (カンマ) 区切りで複数のアドレスを登録することができます。
②	差出人メールアドレス	送信メールの「送信者」メールアドレスを入力します。1 件のみ登録できます。
③	SMTP サーバアドレス	SMTP サーバーのアドレスを IP アドレスまたは FQDN で入力します。
④	SMTP 送信ポート番号	SMTP サーバーへの送信先ポート番号を入力します。
⑤	SMTP 認証	SMTP サーバーの設定が「ユーザー認証あり」の場合、チェック (☑) します。
⑥	TLS1.2 暗号化	SMTP サーバーと TLS1.2 暗号化通信を行う場合、チェック (☑) します。 SMTP サーバーとの通信手順は、ポート番号が 465 の場合は SMTPS となり、それ以外の場合は STARTTLS となります。チェックしない場合は、平文での送信となります。
⑦	ユーザー	⑤SMTP 認証をチェックした場合、認証ユーザー名を入力します。
⑧	パスワード	⑦ユーザーに対応した認証パスワードを入力します。
⑨	メールテスト送信	設定した内容でのテストメールを送信します。各設定項目の設定完了後に画面下部の「設定保存」ボタンの押下が必要です。送信結果はイベントログに記録されます。
メール送信許可 (CMS 経由)		
⑩	各イベント	記載される各イベントの発生時に CMS (オプション) 経由での通知メールを送信するかを設定します。通知したいイベントにチェック (☑) します。
		スケジュール実行報告 スケジュールイベント発生時にメール通知します。
		PING/PORT 異常報告 Ping/PORT 監視での異常検知時にメール通知します。正常に復旧せず連続して異常検知した場合、初回のみメール通知し、2 回目以降はメール通知しません。
		PING/PORT 正常報告 Ping/PORT 監視での正常復帰時にメール通知します。
		電源操作実行報告 AC アウトレット出力操作の正常時にメール通知します。
		電源操作失敗報告 AC アウトレット出力操作の失敗時にメール通知します。
		コマンド送信実行報告 Telnet/HTTP コマンド正常送信時にメール通知します。
		コマンド送信失敗報告 Telnet/HTTP コマンド送信の失敗時にメール通知します。
		ライフチェック通知 一定周期自己診断 (ライフチェック) メールを通知します。
		温度警告 装置内部温度が設定値到達時にメール通知します。30 分間隔での診断です。

メール送信許可 (NF 直接)		
⑪	各イベント	記載される各イベントの発生時に、①送信先メールアドレス～⑧パスワードまでの設定に従い、本装置から通知メールを送信するかを設定します。 通知したいイベントにチェック (☑) します。
	スケジュール実行報告	スケジュールイベント発生時にメール通知します。
	PING/PORT 異常報告	Ping/PORT 監視での異常検知時にメール通知します。正常に復旧せず連続して異常検知した場合、初回のみメール通知し、2 回目以降はメール通知しません。
	PING/PORT 正常報告	Ping/PORT 監視での正常復帰時にメール通知します。
	電源操作実行報告	AC アウトレット出力操作の正常時にメール通知します。
	電源操作失敗報告	AC アウトレット出力操作の失敗時にメール通知します。
	コマンド送信実行報告	Telnet/HTTP コマンド正常送信時にメール通知します。
	コマンド送信失敗報告	Telnet/HTTP コマンド送信の失敗時にメール通知します。
	ライフチェック通知	一定周期自己診断 (ライフチェック) メールを通知します。
	温度警告	装置内部温度が設定値到達時にメール通知します。 本装置起動後 30 分間隔で診断します。
メールパラメータ設定		
⑫	ライフチェック間隔	上記 ⑩⑪ライフチェック通知 の自己診断間隔を入力します。 初期値は 20 (分)、設定可能な最大値は 720 (分) です。
⑬	PING/PORT 正常報告 待機	上記 ⑩⑪PING/PORT 正常報告 のメール通知を送信するにあたって、イベント発生からメール送信までの待ち (wait) 時間を設定します。 初期値は 0 (秒)、設定可能な最大値は 60 (秒) です。

本装置は、「TLS1.2」方式 (STARTTLS 手順) で、SMTP サーバーと暗号化通信を行うことができます。暗号化通信を行う場合には、送信先 SMTP サーバーが「STARTTLS 手順での TLS 1.2 暗号化通信」に対応している必要がありますのでご注意ください。

また、②差出人メールアドレスに存在しないアドレスを指定すると、SMTP サーバーにて SPAM メール該当と判断されメール送信がブロックされる恐れがあります。 差出人メールアドレスには、SMTP サーバーに登録されている (存在する) アドレス「ユーザー名@ドメイン名」を指定するようにしてください。

本装置に搭載されているライフチェックとは、本装置起動後、常に一定時間間隔で通知メールをシステム管理者宛てに送信する機能です。 この機能により、本装置自身の意図せぬ停止や、ネットワーク環境の異常などが生じた際には通知されるべきメールが不達となることにより、いち早くシステム管理者が異常状態を認識することができます。

なお、PING/PORT 異常報告メールは、異常検知時に 1 通メール送信を行いますが、以降も継続して異常状態が検知された場合であっても、正常復帰との判断がなされるまでは PING/PORT 異常報告メールが再送信されません。

このため、機器故障などの理由により設定したアクションを実施したにもかかわらず正常復旧しなかった場合、初回の PING/PORT 異常報告メール以降に、PING/PORT 正常報告メールを受信しないことをもって『非正常 (異常) 状態の継続中』と判断することができます。

システムメンテナンス、時刻合わせ、タイムアウト、上下限設定、CMS 連携設定

ここでは、システムメンテナンス時刻や、NTP サーバーによる時刻合わせ設定、PING/PORT 監視におけるタイムアウト設定、本装置の内部警告温度の上限設定、CMS（クラウド一元管理オプション）に関する設定を行います。

Fig. 31 システム設定画面（システムメンテナンス ～ CMS 連携設定）

The screenshot shows the 'システムメンテナンス設定' (System Maintenance Settings) screen. It contains several sections with configuration fields, each marked with a red circled number:

- ①** Maintenance time (メンテナンス時刻): 03:00
- ②** NTP server address (NTPサーバアドレス): ntp.nict.jp
- ③** NTP port number (NTPポート番号): 123
- ④** Synchronization interval (間合せ間隔(分)): 480
- ⑤** Ping/Port timeout (PING/PORT(秒)): 5
- ⑥** Ping retry count (PINGリトライ回数): 10
- ⑦** Telnet timeout (Telnet通信(秒)): 20
- ⑧** Temperature upper limit warning (温度上限警告(℃)): 50.0
- ⑨** CMS server name (サーバ名):
- ⑩** CMS server port (ポート番号): 80
- ⑪** Response status transmission (応答状態送信): ☒ 送信する
- ⑫** Transmission interval (送信間隔(分)): 5
- ⑬** Remote power control (リモート電源制御(※)): ☒ 電源制御する
- ⑭** Confirmation interval (確認間隔(分)): 5
- ⑮** Event log transmission (イベントログ送信(※)): ☒ 送信する
- ⑯** (※) CMS linkage function settings note: (※) CMS連携機能設定で、応答状態送信が有効に設定されている場合のみ動作します。
- ⑰** Save settings button (設定保存)

© 2015 Value Solution Corporation All rights reserved.

システムメンテナンス設定		
①	メンテナンス時刻	ソフトウェア再起動する時刻（24 時間制）を入力します。初期値は 03:00 です。
時刻合わせ設定		
②	NTP サーバアドレス	ネットワーク上のタイムサーバー（NTP サーバー）アドレスを入力します。 IP アドレスかドメイン形式で最大 127 文字（半角）まで入力できます。
③	NTP ポート番号	NTP サーバーの受信 UDP ポート番号を入力します。
④	問合せ間隔	タイムサーバーへの問合せ間隔（分）を入力します。1～1440（分）の範囲で入力できます。
タイムアウト設定		
⑤	PING/PORT	PING/PORT 監視での応答待ちタイムアウト値を入力します。 初期値は 5（秒）、設定可能な値は 5 ～ 60（秒）です。
⑥	PING リトライ回数	Ping/PORT 監視で無応答時の再試行（リトライ）回数を入力します。 初期値は 10（回）、設定可能な値は 1 ～ 99（回）です。
⑦	Telnet 通信	Telnet 通信での応答待ちタイムアウト値を入力します。 初期値は 20（秒）、設定可能な値は 1 ～ 600（秒）です。
温度上限設定		
⑧	温度上限警告	本装置の内部警告温度（上限値）（℃）を入力します。 小数点以下 1 位まで設定可能です。
⑨～⑮ CMS 連携（こちらは使用しません）		
設定保存		
⑯	設定保存	設定内容を保存し本装置が再起動します。 登録内容変更後は必ずボタンを押下してください。 次節『3.5.7 システム設定保存による再起動』（P.48）を参照ください。

3.5.7. システム設定保存による再起動

システム設定画面では、画面最下段の「設定保存」ボタンをクリックすることで、変更された新たな設定環境での再起動を行います。

再起動は、およそ 30 秒かかります。再起動中には下記の Fig. 32 のような画面が表示されます。下記の画面が出力されてから約 30 秒後、図中の「接続先 URL」リンクをクリックすることで、もしくは Web ブラウザのアドレス欄に本装置の IP アドレスを入力することで管理 TOP 画面 (Fig. 9) に移行します。仮に早くリンクをクリックするとブラウザがタイムアウトを起こし管理 TOP 画面 (Fig. 9) が表示されない場合があります。その場合には、しばらく時間をおいてから F5 (または、Ctrl+F5) キーを押下し再読み込みすることで解決場合があります。

なお本装置の IP アドレスなどを変更した場合は、図中のリンクをクリックしても移行しないケースがあります。その場合には本装置の設定を行った PC 自体のネットワーク設定を通信可能なネットワークセグメントに変更した後、本装置の IP アドレスを直接 Web ブラウザに入力しアクセスしてください。

Fig. 32 再起動実行中画面



3.5.8. 時刻設定

設定画面の設定サブメニューから「時刻設定」項目をクリックすると、本装置の内部時計の時刻を設定する時刻設定画面（Fig. 33）を表示します。

本装置のシステム時刻は、システム設定で登録した NTP サーバーにアクセスし自動で時刻修正を行います。ただし、NTP サーバーアドレスの設定を間違えている、あるいはインターネットへのアクセス環境がない等の理由により、NTP サーバーへのアクセスが正常に行えない場合には、本画面で手動にて日付及び時刻を設定することができます。

Fig. 33 時刻設定画面

①	現在時刻	本装置の内部時計に設定された現在時刻を表示します。
②	設定時刻	年（西暦）月日時分秒を入力します。
③	設定保存	設定内容を保存します。登録内容変更後は必ずボタンを押下してください。

3.5.9. 設定値の保存と復元

設定画面の設定サブメニューから「設定値の保存と復元」項目をクリックすると、本装置の設定値をファイルに保存（エクスポート）、またはファイルから復元（インポート）する設定値の保存と復元画面（Fig. 34）を表示します。

保存される設定値は、メインメニューの「設定」項目内の全てのパラメータが対象です。 なんらかの理由で、これらの設定値が失われた際には、あらかじめ保存しておいた設定値ファイルの本装置に読み込ませる（インポートする）ことで、以前の設定値で素早く本装置を稼働させることができます。

Fig. 34 設定値の保存と復元画面

①	保存実行	すべての設定値を 1 つのファイルにエクスポートします。
②	ファイルの選択	読み込むファイル名を選択します。
③	復元実行	『②ファイルを選択』で読み込んだ設定値ファイルをインポートします。

上記の「保存実行」ボタンをクリックするとファイル名を自動で生成されます。 ファイル名の命名規則は下記ようになります。

param_v バージョン番号_ip4_dYYYYMMDD.xml （例：param_v02010006_ip4_d20221105.xml など）
 YYYY：ファイルを作成した年 （"2022" など）
 MM：ファイルを作成した月 （"11" など）
 DD：ファイルを作成した日 （"05" など）

本装置の実運用を開始する際、この画面にて設定値をファイルに保存しておくことを強く推奨します。

設定値の復元を実行した際、本装置はリセットされます。 設定値ファイルの内容によっては、本装置の IP アドレスの変更等が行われますので、十分にご注意のうえ設定の復元を行ってください。

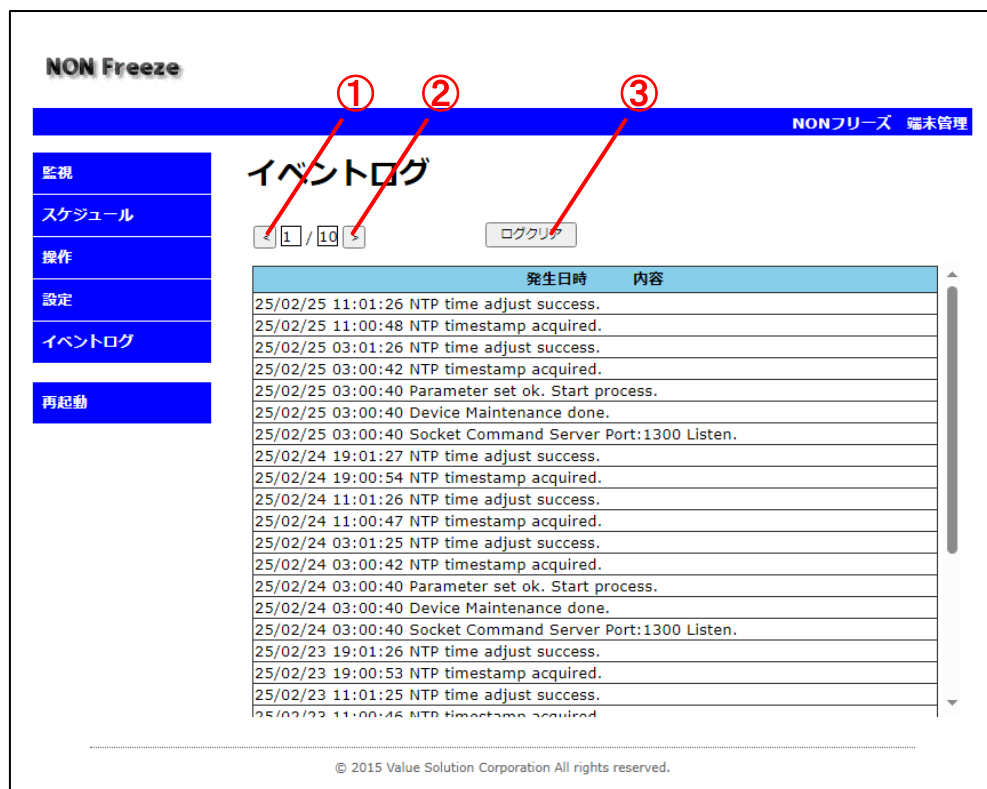
3.6. イベントログ機能

管理 TOP 画面 (Fig. 9) のメインメニューから「イベントログ」項目をクリックすると、イベントログ画面 (Fig. 35) を表示します。

本装置では、1 ページ当たり 30 件、計 10 ページで最大で 300 件のログを記録することができ、それを超えると古いログ内容から順次消去されていきます。

仮に何らかのシステム障害が発生した際には、その時点のイベント記録内容から、障害の発生原因の推定・特定に役立てることができます。

Fig. 35 イベントログ画面



①	<	前頁を表示します。
②	>	後頁を表示します。
③	ログクリア	記録されているすべてのログを消去します。

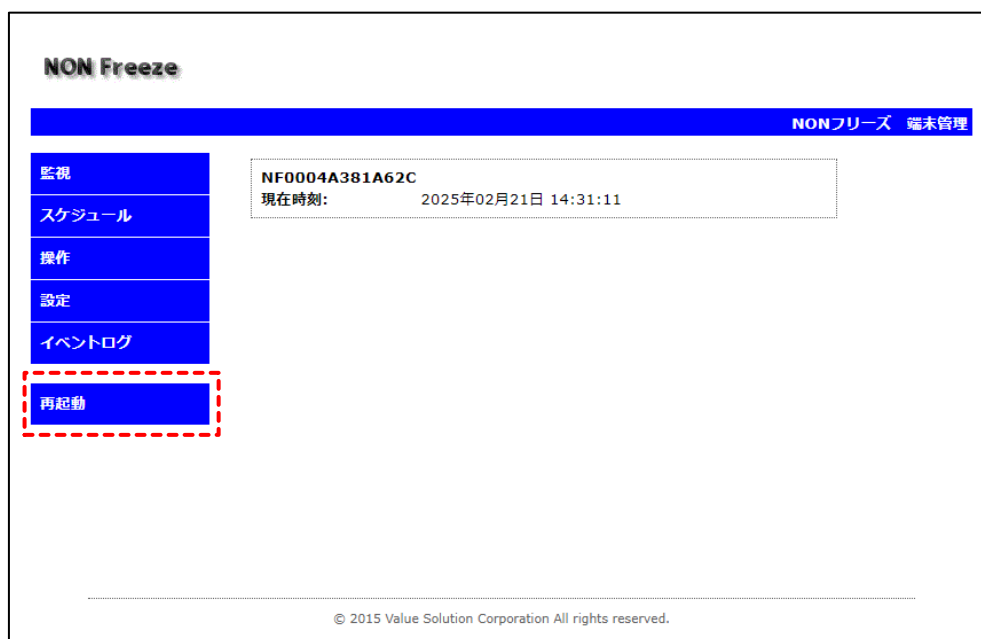
このイベントログに記録される内容とその意味については、別項「4.3 主要ログメッセージ一覧」(P.55)を参照してください。

3.7. 再起動

本装置では、メインメニュー「設定」にて各種設定の変更を行った場合、設定変更作業の最後に必ずメインメニュー最下段にある「再起動」をクリックしてください。

設定変更後に「再起動」を押下しない場合、設定値が正確に反映されないなど予期せぬ動作を引き起こす場合があります。

Fig. 36 再起動ボタン



4. 製品仕様

4.1. 製品仕様

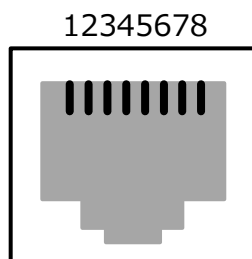
一般仕様 / 機能	数量	仕 様
AC 電源アウトレット数	4	AC100V
最大電力容量 (W)	1200	
LAN インターフェイス	1	RJ45, 10M/100M Base-T
内部カレンダー/時計	1	内蔵
NTP 同期	可	
監視機能	4	Ping/PORT 監視
WOL 機能	10	WOL コマンド (マジックパケット) 送信
Telnet コマンド送信機能	10	Telnet によるコマンド送信
HTTP コマンド送信機能	10	HTTP によるコマンド送信
スケジュール機能	8 件	スケジュールによる電源制御
メール通知機能	有	メールによる警告通知機能
自己診断機能	有	AC アウトレット制御リレー動作不具合を検出
内部温度計	有	内部基板温度を測定
外形寸法 (WDH)	---	218×222×41 (mm)
重量	---	約 1290g
電源	---	AC100V 単相 50/60Hz
消費電力	---	約 6.5W (通信時) / 約 5.5W (アイドル時)
動作温度範囲	---	-20℃～+60℃
動作湿度範囲	---	RH85%以下 (結露なきこと)
PSE 安全規格	○	

4.2. コネクタのピン配列

4.2.1. LAN ポート

本装置の正面にある LAN ポートのピン配列を次に記します。 コネクタ形状は、RJ-45 コネクタです。

Fig. 37 LAN ポートピン配列



No	信号名	入出力	説明
1	TxD+	出力	送信データ (+)
2	TxD-	出力	送信データ (-)
3	NC	---	未使用
4	NC	---	未使用
5	NC	---	未使用
6	NC	---	未使用
7	RxD+	入力	受信データ (+)
8	RxD-	入力	受信データ (-)

4.3. 主要ログメッセージ一覧

本装置では、各種イベントが発生するたびに、その時の発生日時及び内容を記録していきます。
 主要なイベントログのメッセージとその内容を次に示します。

No.	メッセージ	内 容
1.	Parameter set ok.Start process.	REBOOT GUARD 起動時のメッセージ
2.	SchNo:** Sch time arrived	スケジュール*番のスケジュール時刻に到達
3.	IP[*]** Recover Ping	アドレス***に対して Ping 失敗→成功
4.	IP[*]** Ping Fail	アドレス***に対して Ping 失敗（無効応答）
5.	IP[*]** Po:*** Recover Port	アドレス***に対して Port チェック失敗→成功
6.	IP[*]** Po:*** Port Fail	アドレス***に対して Port チェック失敗（無効応答）
7.	OutNo:** Power:ON/OFF	電源 ON/OFF（REBOOT 時は両方）
8.	CmdNo:* IP:*** Telnet Cmd Comp	コマンド No.*のアドレス***に対して Telnet コマンド送信完了
9.	CmdNo:* IP:** Telnet Cmd Fail	コマンド No.*のアドレス***に対して Telnet コマンド送信失敗
10.	CmdNo:* IP:** HTTP Cmd Comp	コマンド No.*のアドレス***に対して HTTP コマンド送信完了
11.	CmdNo:* IP:** HTTP Cmd Fail	コマンド No.*のアドレス***に対して HTTP コマンド送信失敗
12.	WolNo:* WOL Cmd Comp	コマンド No.*の MAC アドレスに対して WOL コマンド送信実行
13.	OutNo:* Output:ON/OFF Error Monitor:*/10	リレー操作 ON/OFF に対して電圧異常
14.	NTP timestamp acquired.	NTP タイムスタンプを取得
15.	NTP time adjust success.	NTP 時刻合わせ成功
16.	Mail Send Error Code:** Subj:**	メール送信失敗
17.	Config Change Success.	システム設定の保存成功
18.	Config Change Fail.	システム設定の保存失敗
19.	Setting Data Upload Start.	パラメータ設定ファイルアップロード開始
20.	Setting Data Upload Fail.	パラメータ設定ファイルアップロード失敗
21.	Setting Data Upload Success.	パラメータ設定ファイルアップロード成功
22.	Parameter File Downloaded.	パラメータ設定ファイルダウンロード完了
23.	Ip:** Ac:* Ty:* W Parm set	Ip**番、アクション*番、タイプ* 監視パラメータ設定の保存成功
24.	MAC parameter set success.	WOL コマンド（MAC アドレス）設定保存成功
25.	Telnet parameter set success.	Telnet コマンド設定保存成功
26.	HTTP parameter set success.	HTTP コマンド設定保存成功
27.	Manual time set success.	手動時刻合わせ設定保存成功
28.	Device Maintenance done.	システムメンテナンス完了
29.	WatchIpNo:** AUTO SUSPEND	IP**番に対する NG アクション自動休止発動
30.	WatchIpNo:** AUTO RESUME	IP**番に対する NG アクション自動休止解除
31.	WatchIpNo:** Cancel AUTO SUSPEND.	IP**番に対する NG アクション自動休止のキャンセル処理
32.	IP[All]:Cancel AUTO SUSPEND.	全ての監視 IP に対する NG アクション自動休止のキャンセル処理

5. その他

5.1. 保証について

保証期間

本製品のメーカー保証期間は、ハードウェア保証書をご確認ください。
ここでいう保証は、ご購入された本製品単体の保証に限ります。

本取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった使用方法で保証期間内に故障した場合、無償修理をさせていただきます。

- ※ 機器の取り外し・再設置作業は、お客様で実施をお願いします。
- ※ 修理依頼時の当社までの送料はお客様にてご負担ください。

修理のご依頼方法は、次項の「5.2 修理のご依頼」を参照してください。

保証の適用外について

前記、保証期間内においても、次項のいずれかに該当する場合は有償修理とさせていただきます。

1. 本取扱説明書上の使用方法及び注意事項に反した取扱いによる故障
2. お買い上げ後の取付場所の移設、輸送、落下などによる故障および損傷
3. 自然災害（火災・地震・水害・落雷などの天災）、電源電圧の異常、落下などを由来する故障および損傷
4. 日本国内以外でのご使用による故障および損傷

また修理調査の結果、製品に異常が認められなかった場合においても、修理調査技術費用をお客様にご負担頂くことがあります。

保証の限度

本製品の故障、および本製品の使用または使用不能に関して生じた直接的および間接的ないかなる損害（逸失利益、機会損失を含みますがこれらに限らないものとします）について、弊社はその責を一切負わないものとします。

5.2. 修理のご依頼

本装置の修理のご依頼手順について、次にまとめます。

1. 本取扱説明書を再度ご確認ください、操作方法及び運用方法に間違いがないことを確認ください。
2. LAN 経由で本装置にアクセスが可能な場合には、設定値のバックアップをしてください。 その方法については「3.5.9 設定値の保存と復元」を参照ください。
3. 画面上に不具合内容が表示されるような場合には、そのスクリーンショットなどを取得してください。
4. 「5.3 お問合せ先」に連絡し、次の内容をお伝えください。
 - 貴社名
 - 担当者名
 - 貴社連絡先
 - 保証の有無
 - 不具合内容
 - スクリーンショットなどの資料
5. 故障機はお客様費用負担にて弊社まで返送して頂き、修理完了後すみやかに返送致します。 （修理期間は状況によっては2週間以上期間を要する場合があります）
6. 修理完了機が着荷後、お客様ご自身でバックアップしておいた設定値を再度読み込みます。 その方法については「3.5.9 設定値の保存と復元」を参照ください。

保証期間内では修理費用、修理部品代は無償です。 但し、製品保証規定に記載されている正常な使用状態の場合のみに適用されます。 有償修理の場合には修理調査費用、修理部品代、輸送費をお客様のご負担とさせていただきます。

5.3. お問い合わせ先

技術的なお問合せ、修理のご依頼につきましては下記までご連絡ください。

株式会社フーバーブレイン カスタマーサポート

E-mail : support@fuva-brain.co.jp

URL : https://www.fuva-brain.co.jp/inquiry/support_contact/

【サポート対応時間】

平日 10 : 00-17 : 00（年末年始などの弊社指定日を除く）